

平成30年度シラバス

児童学科 3年次

番号	科目名	項
2138	中国語Ⅱ※平成29年度後期分	2
2204	保育の心理学(2)	3
2206	臨床心理学	4
2216	ICT活用法(1)	5
2217	ICT活用法(2)	6
2224	児童心理学実験	7
2225	データ処理入門	8
2311	生活科総論	9
2326	家庭科実習	10
2332	教育史	11
2333	教育行政	12
2335	国語科教育法	13
2336	社会科教育法	14
2337	算数科教育法	15
2338	理科教育法	16
2339	生活科教育法	17
2340	音楽科教育法	19
2341	図画工作科教育法	20
2342	家庭科教育法	22
2343	体育科教育法	24
2344	道徳教育の指導法	25
2348	健康の指導法	26

番号	科目名	項
2349	人間関係の指導法	27
2350	環境の指導法	28
2352	表現の指導法Ⅰ(1)	29
2353	表現の指導法Ⅰ(2)	30
2354	表現の指導法Ⅱ(1)	31
2355	表現の指導法Ⅱ(2)	32
2365	教育実習(幼)	33
2366	事前事後指導(幼)	34
2371	社会福祉	35
2382	子どもの保健Ⅱ	36
2383	子どもの食と栄養	37
2387	障害児保育	38
2390	言語表現	39
2394	保育実習指導Ⅱ	40
2395	保育実習Ⅱ	41

【2138】 外国語科目 中国語Ⅱ ※平成29年度後期分		授業形態 演習	担当教員名 町田 秀子	開講年次 3年次	開講時期 前期	開講学科 児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			1年次で学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、目・耳・口を使って繰り返し練習することによって、さらに充実したコミュニケーションを身につける。まとめとして学習した内容をグループワークを中心に互い発表することにより、表現力、コミュニケーション能力を身につける。			単位認定の方法と フィードバックの有無
						期末試験 60% 無
						期末レポート —
						授業内試験 20% 有
						授業内提出物 —
						授業内活動 20% 無
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		○		—	
当該科目のキーワード	日常会話をマスターする		テーマを決め、発表する		—	
授業時間外学修の指示	毎回予習復習を行い、正しい発音を身につけるように努めること					
授業の到達目標	① 正しい発音を身につけること。 ② 日常会話をマスターすること。 ③ 中国文化を正しく理解すること。					
単位認定の要件	毎回の小テストをクリアする。定期試験が60点以上のこと。授業内の発表を積極的に行うこと。					
単位認定方法へのフィードバック	授業内試験はそのつど解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容 ※1～15回は平成29年度に実施				
	16	第7課	約束	キーポイント・本文		
	17	第7課	約束	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
	18	第8課	友達に電話する	キーポイント・本文		
	19	第8課	友達に電話する	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
	20	中国の映画鑑賞				
	21	第9課	郵便局	キーポイント・本文		
	22	第9課	郵便局	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
	23	第10課	医者に行く	キーポイント・本文		
	24	第10課	医者に行く	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
	25	第11課	家庭訪問	キーポイント・本文		
	26	第11課	家庭訪問	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
	27	第12課	謝恩会	キーポイント・本文		
	28	第12課	謝恩会	トレーニング・ヒアリング	小テスト	
29	グループワーク（自分の生活に多く使用するキーワード等を盛り込む）					
30	まとめ 中国語検定対策 試験対策					
教科書・教材	2年生のコミュニケーション中国語					
参考書・参考文献等	とくになし					
履修上の注意等	予習復習をすること					

【2204】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
保育の心理学(2)		演習	三道 なぎさ	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○			○ ○
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
保育の心理学(1)の内容を踏まえ、子どもの発達援助のために必要な理論や、保育現場で生じている諸問題の背景について理解する。また、保育実践の事例に触れながら、子どもの発達援助のために保育者はどのような働きかけや、他機関との協働・連携をしていく必要があるかを考え、基礎的知識を応用していく力の修得を目標とする。						期末試験 ー
						期末レポート ー
						授業内試験 ー
						授業内提出物 80% 有
						授業内活動 20% 無
						その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	○		◎		ー	
当該科目のキーワード	発達援助に関わる理論の理解		保育者からの働きかけや支援方法の検討		ー	
授業時間外学修の指示	講義後から次週の講義までの間、180分程度の復習をするように努めること。具体的には、授業内で適宜紹介された参考資料や文献を活用しながら各回の内容を十分に理解する。授業内の疑問に対し、資料や文献、他の授業で習ったことも参考にしながら考える。					
授業の到達目標	子どもの保育に関する基礎的知識を応用していく力の修得を目標とし、 ①保育の心理学(1)の内容も踏まえ、子どもの発達における家庭や園の役割を理解できる。 ②発達援助に関わる理論を理解できる。 ③子どもの発達にとって、保育者のどのような働きかけや支援が必要であるかを考える。					
単位認定の要件	達成目標①～③の合計得点が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック	授業内提出物は採点して返却し、授業中に解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	保育における発達				
	2	子どもにとっての遊びの意義				
	3	子どもの遊びと自発性(動機づけ理論)				
	4	子どもへのことばがけ(保育者からの影響)				
	5	子どもを取り巻く環境(父親・母親の心理)				
	6	子どもを取り巻く環境(児童虐待)				
	7	子どものトラウマ				
	8	個に応じた保育と発達援助(気になる子)				
	9	個に応じた保育と発達援助(発達障害児)				
	10	知能検査(ウェクスラー式知能検査)				
	11	知能検査(田中・ビネー知能検査)				
	12	発達検査				
	13	子どもの発達特性に応じた援助				
	14	就学への支援				
15	発達援助における協働					
教科書・教材	特になし。					
参考書・参考文献等	福沢周亮(監修)「保育の心理学ー子どもの心身の発達と保育実践ー」(教育出版)					
履修上の注意等	演習や活動に積極的に取り組むこと。各時間毎の課題をしっかりと書き、提出すること。					

【2206】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
臨床心理学		講義	三道 なぎさ	3年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園		
			○			保育士		
単位認定の方法とフィードバックの有無								
					期末試験	85%	有	
授業概要					期末レポート	—		
					授業内試験	—		
					授業内提出物	—		
					授業内活動	15%	有	
					その他	—		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		—		—	
当該科目のキーワード	心の病や心理検査の理解		対応・支援方法の検討		—		—	
授業時間外学修の指示	講義後から次週の講義までの間、180分程度の復習をするように努めること。具体的には、授業内で適宜紹介された参考資料や文献を活用しながら各回の内容を十分に理解する。また、テレビや新聞等のこころの問題に関するニュースや記事に積極的に関心を向ける。							
授業の到達目標	心理的問題を抱える人への対応・支援方法について考える力を修得するために、 ①心の病気、心理検査、心理療法の基礎的用語について理解できる。 ②アセスメントやカウンセリングの意義について理解できる。 ③“健康な心”について自分なりに考え、見出すことができる。							
単位認定の要件	到達目標①～③の合計が60点以上であること。							
単位認定方法へのフィードバック	期末試験は採点し、模範解答と一緒に返却する。コメントペーパーは確認後返却し、講義内においてフィードバックする。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	臨床心理学とは何か（心の健康について考える）						
	2	幼児期・学童期に生じる心の問題（小児心身症、緘黙）						
	3	青年期に生じる心の問題（アイデンティティの形成と拡散、性別違和感）						
	4	児童生徒のメンタルヘルス（摂食障害、不安障害）						
	5	児童生徒のメンタルヘルス（統合失調症の諸症状）						
	6	児童生徒のメンタルヘルス（統合失調症への対応）						
	7	児童生徒のメンタルヘルス（うつ病）						
	8	パーソナリティ（パーソナリティ理論、性格検査）						
	9	アセスメント（アセスメントの体験）						
	10	アセスメント（アセスメントの意義の理解、テストバッテリー）						
	11	カウンセリング技法						
	12	ストレスとは何か（ストレスのメカニズム）						
	13	ストレスとは何か（ストレスのメカニズム、心と体のつながり）						
	14	心理療法（認知療法）						
15	心理療法（遊戯療法）							
教科書・教材	特になし。							
参考書・参考文献等	下山晴彦（編）「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房							
履修上の注意等	配布資料が多いため、各自ファイルを用意すること。自身のこころの健康にも目を向けるようにすること。							

【2216】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
ICT活用法(1)		演習	奈良 拓哉	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			情報の収集・蓄積・加工等をおして、新たな情報を創造する能力を養う。情報の意義や特色について理解を深めるとともに、適切に伝わりやすい表現や発信の方法を考えながら実践的に学ぶ。			単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	50% 有
						授業内活動	50% 無
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	—		○		—		◎
当該科目のキーワード	—		情報表現		—		情報の受発信
授業時間外学修の指示	技術修得のため、空き時間を利用して練習（週合計45分以上）することが望ましい。						
授業の到達目標	身近なアプリケーションソフトウェアを応用しながら、自在に情報を表現する能力を養う。あわせて、周辺機器やファイル等の特性を理解し、パーソナルコンピュータ全般に対する知識を高め、操作技術の修得を目指す。						
単位認定の要件	全ての課題・レポートが提出されていること。						
単位認定方法へのフィードバック	課題で制作する作品は互いに見比べ、今後の参考にしてほしい。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	アナログとデジタル、ファイルの特性について					
	2	ファイルの種類、管理について					
	3	Wordの応用 — インデント設定 等					
	4	Wordの応用 — その他ファイル形式への書き出し 等					
	5	Wordの応用 — 校閲 等					
	6	Excelの応用 — 条件付き書式、循環参照 等					
	7	Excelの応用 — その他ファイル形式への書き出し 等					
	8	Excelの応用 — ウィンドウ枠の固定 等					
	9	PowerPointの応用 — その他ファイル形式への書き出し 等					
	10	PowerPointの応用 — ページ設定、印刷 等					
	11	PowerPointの応用 — プロジェクターの操作 等					
	12	ネットワーク — ネットワーク・Webの概要					
	13	インターネット — ホームページの概要・制作					
	14	インターネット — ホームページのアップロード					
15	情報化社会の現状とこれから						
教科書・教材	特になし。						
参考書・参考文献等	随時参考資料を配布する。						
履修上の注意等	毎日の生活の中で見るレイアウトやデザインに関心をはらい、デザインセンス向上を意識してほしい。						

【2217】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
ICT活用法(2)		演習	奈良 拓哉	3年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			<p>情報の収集・蓄積・加工等とおして、新たな情報を創造する能力を養う。情報の意義や特色について理解を深めるとともに、適切に伝わりやすい表現や発信の方法を学ぶ。 また、アプリケーションソフトウェアの開発を通し、コンピュータの概要を実践的に学ぶ。</p>			単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	50% 有
						授業内活動	50% 無
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	—		○		—		◎
当該科目のキーワード	—		情報表現		—		情報の受発信
授業時間外学修の指示	技術修得のため、空き時間を利用して練習（週合計45分以上）することが望ましい。						
授業の到達目標	身近なアプリケーションソフトウェアを応用しながら、自在に情報を表現する能力を養う。あわせて、周辺機器やファイル・プログラミング等の特性を理解し、パーソナルコンピュータ全般に対する知識を高め、操作技術の修得を目指す。						
単位認定の要件	全ての課題・レポートが提出されていること。						
単位認定方法へのフィードバック	課題で制作する作品は互いに見比べ、今後の参考にしてほしい。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	デザイン認知と知覚について					
	2	図形表現の分類と効果について					
	3	ペイント系ソフトウェアの活用 — 色の扱いについて 等					
	4	ペイント系ソフトウェアの活用 — フォトレタッチ 等					
	5	ペイント系ソフトウェアの活用 — アニメーションGIF 等					
	6	音声データの活用 — データの種類 等					
	7	音声データの活用 — 音楽CDの特徴 等					
	8	動画の活用 — 動画ファイルの概要					
	9	動画の活用 — 動画の制作					
	10	動画の活用 — DVD-Videoの制作 等					
	11	プログラミング — プログラミング言語について 等					
	12	プログラミング — アルゴリズム、フローチャート 等					
	13	プログラミング — ソフトウェアの制作 等					
	14	プログラミング — デバック 等					
	15	プログラミング — 制作したソフトウェアの運用					
教科書・教材	特になし。						
参考書・参考文献等	随時参考資料を配布する。						
履修上の注意等	毎日の生活の中で見るレイアウトやデザインに関心をはらい、デザインセンス向上を意識してほしい。						

【2224】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
児童心理学実験		実験	小林 琢哉	3年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	45	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要		自己理解と児童理解の方法を習得し、将来の実践に活用出来るようにするために、心理学の基礎としての実験、調査、テスト、心理統計などを習得させる。性格検査を通して自己理解と自己分析を、実験では、計画・実施・データ処理と分析、レポート作成の方法を学ばせる。実際に尺度の作成と分析を行わせ、実施上の留意点などについて、具体的に考えさせる。				期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	80% 有
						授業内活動	20% 無
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	◎		○		—		—
当該科目のキーワード	心理実験の基礎の理解		レポート作成		—		—
授業時間外学修の指示	授業内に行った心理実験について、レポート作成を行う。						
授業の到達目標	目標：各種性格検査、心理実験、尺度の実施とデータ分析を通じて、心理学的手法による人間理解の実践について学ぶとともに、心理・教育統計の基礎とその使用方法を習得する。						
単位認定の要件	上記の到達目標に基づく実験レポートと授業への参加状況の評価合計が60%以上であること。						
単位認定方法へのフィードバック	レポートを添削し、講評を添えて返却する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	第1回：心理実験の方法と記述統計					
	2	第2回：性格検査①エゴグラム					
	3	第3回：性格検査②YG性格検査					
	4	第4回：性格検査③クレペリン検査					
	5	第5回：調査法①尺度の作成					
	6	第6回：心理実験①鏡映描写					
	7	第7回：心理実験②ミューラー・リヤー錯視					
	8	第8回：心理実験③ストループ効果					
	9	第9回：心理実験④ドット・プローブ課題					
	10	第10回：心理実験⑤心的回転					
	11	第11回：心理実験⑥系列位置効果					
	12	第12回：心理実験⑦オペレーションスパンテスト					
	13	第13回：心理実験⑧潜在的態度 (Implicit Association Test)					
	14	第14回：調査法②尺度の項目分析					
	15	第15回：作成した尺度の分析結果発表					
教科書・教材	特になし						
参考書・参考文献等	兵藤宗吉・須藤智（編）認知心理学基礎実験入門 八千代出版						
履修上の注意等	実験実施に支障をきたすので遅刻をしないように心がけること。						

【2225】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
データ処理入門		演習	小林 琢哉	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法とフィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士
				○	△		
授業概要			Excelによるデータ処理と記述統計・推測統計と各種の検定方法を学ぶことを目的とする。単にソフトウェアの使用法を理解するだけでなく、心理学の研究に用いられている分析手法を学ぶ過程で、データの種類と研究目的に合った検定方法を使用できるようになることを目指す。また、検定の結果を卒業論文やレポートに記載するための書式をも学ぶ。				期末試験 — 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 80% 有 授業内活動 20% 有 その他 —
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
当該科目のキーワード		—	データ解析法の理解	—	データ解析の応用		
授業時間外学修の指示		授業で配布されるプリント課題を用いて復習（30分）と予習（15分）を行う。					
授業の到達目標		到達目標：Excelを用いたデータ分析方法の基礎を身に付ける。 テーマ：質問紙調査・心理実験などで必要とされるデータ解析の基礎を習得する。あわせて、分析結果をレポートや論文に記載する際の書式も習得する。					
単位認定の要件		授業内レポートと授業内活動の合計点が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック		授業内レポートには講評を添付して返却する。授業内活動については、授業時間内に正解と解法を解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	Excel基本的使用法：データファイルの読み込み、四則演算の方法、基本的な関数の使用法				
		2	記述統計①尺度の種類と代表値（平均値、最頻値、中央値など）の関係				
		3	記述統計②データの視覚的表現法（散布図、ヒストグラム、棒グラフ、箱ひげ図）				
		4	記述統計③散らばり方を示す値の算出（分散、標準偏差、標準誤差）				
		5	推測統計①1つの値による母数の推定（正規分布、標本分布）				
		6	推測統計②幅を持った区間による母数の推定				
		7	仮説検定①統計的検定の手順と用語の理解				
		8	仮説検定②1つの平均値の検定				
		9	仮説検定③相関係数の算出と検定				
		10	仮説検定④対応のない2群の平均値の差の検定				
		11	仮説検定⑤対応のある2群の平均値の差の検定				
		12	仮説検定⑥3群以上の平均値の差の検定				
		13	仮説検定⑦データによる予測：回帰分析				
		14	仮説検定⑧名義尺度・間隔尺度データの検定				
		15	検定力分析				
教科書・教材		特に指定しない。授業内でプリントを配布する。					
参考書・参考文献等		小宮あすか・布井雅人 Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツールHADで基本を身につける（KS専門書）講談社					
履修上の注意等		統計学に関する知識は特に必要としない。					

【2311】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
生活科総論			演習	長尾 明義	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士	
授業概要			文部科学省発行の「小学校学習指導要領解説 生活編」をテキストとして使用し、生活科の目標、学年目標、内容の理解および指導計画や内容の取扱い等、生活科という教科の全体像の理解を図る。また、次期学習指導要領の生活科で強調されている幼児教育と小学校の円滑な接続についての理解を図る。生活科を核とした合科的・関連的な指導としてのスタートカリキュラムや幼児教育におけるアプローチカリキュラムについても取り上げ、生活科の果たす役割について考える授業を展開していく。また、文部科学省が示している、次期学習指導要領における生活科の方向について紹介し、教科のもつ役割の重要性を確認する。			期末試験	—	
						期末レポート	20%	無
						授業内試験	40%	有
						授業内提出物	30%	有
						授業内活動	10%	無
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		—		—		○	
当該科目のキーワード	生活科の目標・内容等の理解		—		—		スタートカリキュラムの構想	
授業時間外学修の指示	講義前日の予習20分、当日の復習25分を確実にし、授業の到達目標を達成するように努めること。							
授業の到達目標	生活科全体像と役割を理解し、スタートカリキュラムを構想することができる。 ①生活科の目標・内容を理解しワークシート（生活科の樹）に記述できる。 ②指導計画や内容の取扱い等における配慮事項について理解し、指摘できる。 ③学習したことを生かし、自分なりにスタートカリキュラム（4月当初）の構想を練り、作成できる。							
単位認定の要件	到達目標の①～③の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	小テストによる理解度をチェックし、全体及び個別に助言する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 生活科新設の背景と基本方針・センスオブワンダーと生活科（生活科の理解）						
	2	第1章 生活科の目標・学年目標・内容（目標・内容の理解）						
	3	第1章 内容の階層性・具体的な視点・学習対象（内容の階層性）						
	4	第2章 内容（1）～（3）（内容の理解）						
	5	第2章 内容（4）～（5）（内容の理解）						
	6	第2章 内容（6）～（9）（内容の理解）						
	7	第3章 指導計画作成上の配慮事項（指導計画・配慮事項）						
	8	第3章 指導計画作成上の配慮事項（指導計画・配慮事項）						
	9	第3章 指導計画作成上の配慮事項（指導計画・配慮事項）						
	10	第3章 年間指導計画作成の配慮事項（年間指導計画・配慮事項）						
	11	第4章 小1プロブレムとアプローチカリキュラム・スタートカリキュラム（スタートカリキュラム・生活科）						
	12	第4章 スタートカリキュラムの作成例、生活科教科書から探る（スタートカリキュラム・生活科）						
	13	第4章 スタートカリキュラムの構想・作成（生活科を核とした合科的・関連的指導）						
	14	第4章 スタートカリキュラムの作成・発表（スタートカリキュラムの作成・発表）						
15	第5章 次期学習指導要領改訂・生活科の方向と役割・授業のまとめ（生活科の役割）							
教科書・教材	小学校学習指導要領解説「生活編」（文部科学省） DVD「センス・オブ・ワンダー」（グループ現代）							
参考書・参考文献等	「生活科・新たなステージへ」（村川雅弘編著・日本文教出版） 「教師用指導書」（学校図書） 「生活科事典」（中野重人編・東京書籍）							
履修上の注意等	学習指導要領で示されている生活科の内容と今後の方向を学び実践に生かすようにしていただきたい。							

【2326】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
家庭科実習		実習	葛西 美樹 今村 麻里子	3年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	45	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			家庭科教育法の講義内容を基に、小学校家庭科の基礎的知識、技能を習得することを目的とするとともに、幼児児童の実態に即した用具の安全な取扱いや環境の整備などについて総合的に学習する。また、生涯にわたって活用できる技能を習得する。			単位認定の方法と フィードバックの有無
			○	△		期末試験 10% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 70% 有
						授業内活動 20% 無
						その他 —
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード		基礎的知識・技術の習得	用具の安全な取り扱い環境の整備	—	生涯を通して必要なスキル	
授業時間外学修の指示	調理や被服の基礎的スキルについて、次回の授業までに最低45分の継続的な学習を要する。					
授業の到達目標	小学校家庭科で取り扱う食物領域・被服領域の基礎的な実習内容について、知識と技術を習得することを目的とする。 また、児童に指導する際の留意点について、理解を深める。					
単位認定の要件	講義内活動、講義内提出物、レポート課題等の取り組みを総合的に判断し60%以上の習得とする。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験：試験後に正答を伝達する。 授業内提出物：レポート・作品等の返却時にコメントを入れる。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	講義概要ガイダンス：実習に関する心構え、諸連絡（担当：今村）				
	2	ご飯とみそ汁、卵料理について：おにぎり、豚汁、卵料理（担当：今村）				
	3	日本料理のテーブルマナー：ちらし寿司、かき卵汁、ほうれん草のお浸し（担当：今村）				
	4	麺を主とする献立：スパゲッティ・ナポリタン、野菜サラダ、果汁かん（担当：今村）				
	5	西洋料理のマナー：鯖のムニエル、粉ふきいも、フルーツヨーグルト、コーヒー（担当：今村）				
	6	一汁三菜について：炊き込みご飯、豆腐となめこのみそ汁、きゅうりとわかめの酢の物（担当：今村）				
	7	おやつについて：お好み焼き、白玉だんご、緑茶（担当：今村）				
	8	食育を考える：いわしのかば焼き丼、野菜炒め、おからのおやき（担当：今村）				
	9	手縫い作品：図案の決定、布の裁断、なみ縫い、玉結び、玉どめ、かがり縫い（担当：葛西）				
	10	：仕立て（接着芯の使い方、半返し縫い、本返し縫い）（担当：葛西）				
	11	染色(身近な材料を使った絞り染め)：輪ゴムや割箸を使った模様付け（担当：葛西）				
	12	ミシン縫い作品(応用)：型紙の作成、布の裁断、躰のかけ方（担当：葛西）				
	13	：ミシンの使い方、ボタンの縫い方（担当：葛西）				
	14	：袋物の縫い方、ひもの通し方（担当：葛西）				
15	被服の保健衛生機能の把握（吸水性）：吸水実験（担当：葛西）					
教科書・教材	わたしたちの家庭科5.6（開隆堂）、新しい家庭5.6（東京書籍）、プリント					
参考書・参考文献等	小学校学習指導要領解説 家庭編(文部科学省) わたしたちの家庭科5.6（開隆堂） 新しい家庭5.6（東京書籍）					
履修上の注意等	材料費は実費負担となる。					

【2332】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
教育史		講義	齋藤 雅俊	3年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○	○	○	
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
「教育原理」で概説した教育思想の流れを振り返り、再確認しながら、より発展的で深い教育史の知識に触れていく。そして、その時代ごとに要請された教育のあり方、数多くの教育者・教育学者たちによる試行錯誤の軌跡を辿ることで、これからの教育が進むべき道、さらには各々が目指す教師としてのあり方についても考えを深めていく。						期末試験 55% 無
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 45% 有
						授業内活動 —
						その他 —
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	—	—	
当該科目のキーワード		教育思想の歩みについての理解	前項目に関する口頭、文章等による説明	—	—	
授業時間外学修の指示		次回講義資料を事前に配布するので、目を通しておくこと。				
授業の到達目標		教育実践のための基礎力を身につけるために、 ①「教育原理」で学んだ教育史分野の内容を振り返り、理解を深める。 ②時代背景も含め、教育原理よりさらに発展的な知識を修得する。 ③前項目について理解・修得したことを授業内で口頭発表したり、試験・レポート等で論述できる。				
単位認定の要件		期末試験（100点×0.55）＋コメントペーパー等授業内提出物（3点×15回分）＝60点以上 ※小数点以下切捨				
単位認定方法へのフィードバック		コメントペーパーについては返却する。期末試験については、試験範囲のプリントを事前に渡しておくため、あえて答案自体は返却しない。それらのプリントを元に復習をしっかりとすること。				
授業計画（各回の内容や到達目標）		回	内 容			
		1	西洋教育史 古代の教育（ギリシア・ローマの教育）			
		2	中世の教育（キリスト教、騎士の教育、大学の誕生、市民の教育）			
		3	近世の教育（ルネサンス・宗教改革と教育、自然科学の発達と教育）			
		4	近代の教育（1）（実学主義、敬虔主義、啓蒙主義）			
		5	近代の教育（2）（新人文主義、市民・産業革命と教育、近代公教育制度の確立）			
		6	現代の教育（1）（新教育運動の拡がり）			
		7	現代の教育（2）（第二次大戦後の教育改革）			
		8	日本教育史 古代の教育（飛鳥～奈良～平安時代の教育）			
		9	中世の教育（鎌倉～室町時代の教育）			
		10	近世の教育（江戸時代の教育、藩校・寺子屋・私塾等）			
		11	近代の教育（1）（明治時代の教育）			
		12	近代の教育（2）（大正時代の教育）			
		13	近代の教育（3）（昭和戦前時代の教育）			
		14	現代の教育（1）（第二次大戦後の民主主義教育）			
		15	現代の教育（2）（高度経済成長期～平成）			
教科書・教材		特になし。				
参考書・参考文献等		『オープンゼミシリーズ 教職教養Ⅰ「教育原理 教育史」』東京アカデミー。配布プリントが多いため、各自綴じるためのファイルを用意すること。なお、1年次の「教育原理」で配布した資料なども随時使用する。				
履修上の注意等		新聞・テレビなどの教育関連情報に関心をはらうこと。また、出欠の不正（中抜け、無断退出、代返、コメントペーパー代筆など）の他、成績評価に関わる全ての不正については単位認定を不可とする場合がある。				

【2333】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
教育行政		講義	本山 敬祐	3年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	○	○		
授業概要						単位認定の方法とフィードバックの有無		
<p>教職員の身分や日々の教育実践は、教育に関する法律や行政組織によって制約を受け、また同時に支えられている。本講義では公教育の原理をはじめ、中央および地方の教育行政組織の構造と機能、教職員の服務や職能開発に関する法規等の教育行政に関する基本事項を学習するとともに、学校安全や学校と地域の連携、多様な教育機会の保障等の近年の教育課題について教育行政学の視点をもとに考察し議論する力を身につけることを目標とする。</p>						期末試験	—	
						期末レポート	70%	無
						授業内試験	—	
						授業内提出物	—	
						授業内活動	30%	有
						その他	—	
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》			
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。			
		◎	○	○	○			
当該科目のキーワード		教育行政組織の構造と役割	構造的な問題把握	教育行政への参加	課題解決に向けた提案力			
授業時間外学修の指示		文部科学省等のホームページを閲覧し、講義内容の理解に努めること。レポートに関しては、事前の添削を受けることを強く勧める。これらを通じて各回180分程度の学修を求める。						
授業の到達目標		①日本の教育行政の原理・構造・機能について理解し説明できる。 ②今日の教育問題について、教育行政の視点から考察できる。 ③考察した課題について先行研究を踏まえて議論できる。						
単位認定の要件		到達目標①～③までの合計が60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック		授業内活動の成果として提出されるコメントペーパーにおける質問等については、次回講義で応答する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容					
		1	ガイダンス					
		2	教育行政の基本原則					
		3	教育委員会制度①民意の反映					
		4	教育委員会制度②専門的リーダーシップ					
		5	教育財政・教育費					
		6	資本蓄積としての学校教育					
		7	学校安全					
		8	教職員の身分および労働環境					
		9	児童生徒に関する制度					
		10	インクルーシブ教育					
		11	生涯学習					
		12	教育における境界連結①官民関係					
		13	教育における境界連結②行政領域					
		14	次世代の学校のための教育ガバナンス					
15	まとめ							
教科書・教材		『教育六法』（2018年度版を既に購入済みの場合は、出版社は問わない）。						
参考書・参考文献等		<ul style="list-style-type: none"> ・日本教育行政学会研究推進委員会編（2013）『教育機会格差と教育行政：転換期の教育保障を展望する』福村出版。 ・小玉重夫編（2016）『学校のポリティクス』（岩波講座教育 変革への展望第6巻）岩波書店。 ・牛渡淳編著（2017）『はじめて学ぶ教育の制度・行政・経営論』金港堂。 ・横井敏郎編著（2017）『教育行政学：子ども・若者の未来を拓く』八千代出版。 						
履修上の注意等		期末レポートの課題は初回に提示する。関心のあるテーマを見つけたら、いつレポートに取り組んでも構わない。						

【2335】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
国語科教育法		演習	船水 周	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要			3年次の国語科教育法は、小学校国語科教育の目標・内容・方法・評価、国語授業の年間計画・学習指導案・教材研究方法、国語科教育の歴史・日本語の特色・学習指導基本用語等（理論編）を体系的に学ぶことをねらいにしている。 こうした知識を国語教師が身に付けることによって、正しく豊かな国語実践（学習指導）が創り出され、結果として子どもたちの国語学力が保障される。理論は実践の地図になる。主体的に、くり返し学びながら、理論に対する理解を深め、自分のものにしてほしい。			単位認定の方法とフィードバックの有無
						期末試験 ー
						期末レポート 30% 無
						授業内試験 20% 有
						授業内提出物 30% 有
						授業内活動 20% 有
						その他 ー
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		◎	○	○	ー	
当該科目のキーワード		言語教育・国語学力	発表・質問	協働性	ー	
授業時間外学修の指示		学修時間を90分確保し、各回の目標達成に努める。内訳は予習1/3（30分）、復習2/3（60分）。				
授業の到達目標		①小学校国語教育の目標・内容・方法・評価を理解する。 ②国語授業の年間指導計画・学習指導案・教材研究方法を理解する。 ③国語科教育の歴史・日本語の特色・学習指導基本用語を理解する。 ④グループごとに、テキストで調べたことや考えたことを話し合う。				
単位認定の要件		合計60点以上				
単位認定方法へのフィードバック		①時間内に教師が答えを発表し学生に自己採点させる。②提出物や活動はICTの活用・口頭により解説する。				
授業計画（各回の内容や到達目標）		回	内 容			
		1	【国語科の構造】「国語教育と国語科教育」「内容・方法・評価」「国語学力」「言語教育」 ※ICT活用			
		2	【教材研究方法】「教材と学習材」「研究視点：話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと」 ※ICT活用			
		3	【学習指導計画】「学校全体・学年・1単位時間の計画と評価」「学習指導の知識・技能」 ※ICT活用			
		4	【学習指導実践1】「話すこと・聞くことの指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		5	【学習指導実践2】「読むことの指導：文学的文章、説明的文章」 ※新旧学習指導要領対照			
		6	【学習指導実践3】「書くことの指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		7	【学習指導実践4】「伝統的な言語文化の指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		8	【学習指導実践5】「国語の特質に関する事項の指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		9	【学習指導実践6】「書写の指導」「他教科・領域との関連指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		10	【学習指導実践7】「メディアリテラシー」「読書活動の指導」 ※新旧学習指導要領対照			
		11	【国語科の知識1】「国語科教育の歴史」「児童の言語と思考」 ※ICT活用			
		12	【国語科の知識2】「日本語の特色 a日本語の位置 b発音 c文字・表記」 ※ICT活用			
		13	【国語科の知識3】「日本語の特色 d語彙・句語 e文法 f言葉遣い・敬語」 ※ICT活用			
		14	【国語科の知識4】「国語科の学習指導基本用語」 ※ICT活用			
		15	【国語科の知識5】「習得・活用・探究の考え方」「国語教師のあり方と力量」 ※ICT活用			
教科書・教材		田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編『小学校国語科授業研究第四版』※学習指導要領記載（教育出版、2009）				
参考書・参考文献等		全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』（学芸図書、2009）全国大学国語教育学会編『小学校国語科教育研究』（学芸図書、2009）国語教育研究所編『国語教育研究大辞典』（明治図書、1988）日本国語教育学会編『国語教育辞典』（朝倉書店、2001）田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典第四版』（教育出版、1984）高橋俊三編『音声言語指導大辞典』（明治図書、1999）文部科学省『（新）小学校学習指導要領解説国語編』				
履修上の注意等		授業はテキスト内容の理解と定着のため、調べたり、考えたり、話し合う活動が中心となる。				

【2336】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
社会科教育法		演習	石戸谷 繁	3年次	通年	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	○		
授業概要		講義・模擬授業をとおして社会科教育の本質、新しい学習指導要領の目標と内容を理解し、指導技術を習得する。学習をとおして社会的思考力の向上を図る。また実際に自分たちが生活している地域を調べ、伝統や文化、人々の生活についての理解を深めるとともに教材化する力を身に付ける。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	50% 無
						授業内活動	50% 無
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		◎	○	—	—		
当該科目のキーワード		—	—	—	—		
授業時間外学修の指示		日常生活、書籍、マスコミやインターネット等をとおして、現在と過去における地域と日本、世界における様々な出来事や事象に関心をもつ。					
授業の到達目標		①社会科教育の本質、新しい小学校社会科学習指導要領の目標と内容を理解する。②実際の授業における基礎的知識と指導技術を習得する。③地域を理解し、教材化する力を身に付ける。					
単位認定の要件		到達目標①～③の達成が60%以上					
単位認定方法へのフィードバック		特になし					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	社会科とはなにか① 社会科教育の本質、社会科の成立と展開				
		2	社会科とはなにか② 学習指導要領のめざすもの、社会科の改善の基本方針、社会科の目標と内容の概要				
		3	小学校第3学年・第4学年の目標と内容				
		4	地域学習の指導 地域の調べ方、地域教材・地域の人材、「わたしのまち みんなのまち」				
		5	弘前街探検① 研究計画の策定（実施の目的と留意点）				
		6	" ② 街探検の実施				
		7	" ③ "				
		8	" ③ 発表資料の作成				
		9	" ④ 発表と評価				
		10	学習指導案の作成① 基本的な考え方・作成上の留意点				
		11	" ② 指導案作成、指導案検討会				
		12	模擬授業の実施・協議① A班				
		13	" ② B班				
		14	" ③ C班				
		15	まとめ 社会科教師に求められるもの				
教科書・教材		「小学校学習指導要領解説 社会編」平成29年改訂（文部科学省）、「新編 新しい社会3・4」上・下（東京書籍）					
参考書・参考文献等		特になし					
履修上の注意等		特になし					

【2337】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
算数科教育法		演習	伊藤 學	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
			○	○		
授業概要			算数科教育の目標、指導内容、指導及び評価方法についての理解を深め、小学校教員として必要な実践的能力の基礎を養うため、小学校算数・中学校数学の目標・内容を分析することにより、算数・数学の特性を理解し、教材研究を深め、自作教具の製作や教材開発を絡めながら、授業形態を含む講義・演習を行う。 テーマ：「惨数・数が苦」から「讚数・数楽」へ *学生の主体性を尊重し、質問・要望には柔軟に対応			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	—		
			期末レポート	—		
			授業内試験	—		
			授業内提出物	60%	有	
			授業内活動	40%	有	
			その他	—		
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
		○	○	—	○	
当該科目のキーワード		系統性	論理的思考力	—	教材解釈・教材開発	
授業時間外学修の指示		毎回の授業内容を整理して論理的な考察を加えてレポートを作成し、ポートフォリオとして自らの学習資料を充実させる。				
授業の到達目標		①作図の基本を習得し、教材開発、自作教具の製作につなげることができる。 ②算数・数学の各領域における系統性を把握できる。 ③日常生活における量感、関数関係を算数・数学の舞台に乗せることができる。 ④算数・数学の特性を理解し、授業づくりに生かすことができる。				
単位認定の要件		授業参加状況、問題演習、提出物等の総合評価。				
単位認定方法へのフィードバック		授業内容を記述したレポートの提出、返還を通し、学生の質問・要望を取り上げて解説する。				
授業計画(各回の内容や到達目標)		回	内 容			
		1	ガイダンス（授業の概要、留意点、評価、準備物等）			
		2	小学校算数科の目標分析（教科の目標）→小学校学習指導要領解説（算数編）活用、作図の基本他			
		3	小学校算数科の目標分析（1年）→小学校学習指導要領解説（算数編）活用、作図の基本他			
		4	小学校算数科の目標分析（2年）→小学校学習指導要領解説（算数編）活用、作図の応用他			
		5	小学校算数科の目標分析（3年）→小学校学習指導要領解説（算数編）活用、作図の応用他			
		6	小学校算数科の内容構成理解（数と計算）、教材研究、教具の工夫			
		7	小学校算数科の内容構成理解（量と測定）、教材研究、教具の工夫			
		8	小学校算数科の内容構成理解（図形）、教材研究、教具の工夫			
		9	小学校算数科の内容構成理解（数量関係）、教材研究、教具の工夫			
		10	中学校数学科の内容構成理解（小学校算数との関連）、教員採用試験の分析（H20年前期過去問活用）			
		11	中学校数学科の内容構成理解（小学校算数との関連）、教員採用試験の分析（H20年中期過去問活用）			
		12	中学校数学科の内容構成理解（小学校算数との関連）、教員採用試験の分析（H20年後期過去問活用）			
		13	学習指導案について、観点別評価、評価規準・評価基準についての理解			
		14	授業づくりのポイントの理解			
		15	学習指導案（細案）づくり（演習）			
教科書・教材		しょうがっこうさんすう1年、小学校算数2年上・下、3年上・下（学校図書）				
参考書・参考文献等		小学校学習指導要領解説（算数編）、中学校学習指導要領解説（数学編）				
履修上の注意等		三角定規（大1組）、コンパス、カッター、ハサミを各自準備すること。毎回レポートの提出あり（A4版）。				

【2338】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
理科教育法		演習	花田 裕	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
理科教育法を初めて学ぶ学生を対象としている。そこで、学習指導要領解説書に記載されている内容について、その意味や意義について理解するとともに、各領域別でのねらいと各学年間の系統性を探求する。また指導細案作成演習を行う際、指導ポイントを考察する。このことで、科学的な見方や考え方を育てる、指導法の基礎・基本を身に付けることができるであろう。						期末試験 ー
						期末レポート 30% 有
						授業内試験 ー
						授業内提出物 40% 有
						授業内活動 30% 有
						その他 ー
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		○		ー	
当該科目のキーワード	・目標と指導内容の理解 ・指導案の構成項目理解		・児童理解と指導法 ・教材活用と課題解決力		ー	
授業時間外学修の指示	各回の講義テーマを視点として予習を50分、講義終了後40分、到達目標を確認しながら学修すること。					
授業の到達目標	①学習指導要領の内容を理解し、学年、領域の視点から整理することができる。 ②学習指導要領を踏まえ、児童に付けたい力を押さえた指導案を構築することができる。 ③実験器具について、取り扱い技法と留意事項について理解できる。 ④模擬授業を通し、児童の実感を伴った指導法について理解することができる。					
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック	事前に示した各レポートの採点基準を確認しながら、授業中に解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	第1章 理科学習は児童にとって必要か。(付けたい・高めたい能力の探求)				
	2	第2章 エネルギーの領域では、何を学んでいくのか。(ねらい、観点)				
	3	各学年のねらいと学年間の系統性についての探求。(領域を視点とした付けたい力の明確化)				
	4	第3章 粒子の領域では、何を学んでいくのか。(ねらい、観点)				
	5	各学年のねらいと学年間の系統性についての探求。(領域を視点とした付けたい力の明確化)				
	6	第4章 生命の領域では、何を学んでいくのか。(ねらい、観点)				
	7	各学年のねらいと学年間の系統性についての探求。(領域を視点とした付けたい力の明確化)				
	8	第5章 地球の領域では、何を学んでいくのか。(ねらい、観点)				
	9	各学年のねらいと学年間の系統性についての探求。(領域を視点とした付けたい力の明確化)				
	10	第6章 児童の認知と授業の進め方どうすればよいのか。(振り返りと課題発見、実験・観察の指導法)				
	11	ワークシートの観点とノート指導、評価方法。(評価規準と評価基準との違い)				
	12	第7章 学習指導細案の構成要素の探求。(構成項目の理解)				
	13	指導案の作成演習。(個別演習)				
	14	模擬授業。(観点として児童の思考に沿った指導法)				
15	第8章 実験器具の取り扱い方。(主に薬品の希釈と処理)					
教科書・教材	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書					
参考書・参考文献等	「小学校教員志望学生のための理科教育入門書」(東洋館出版 松森靖夫・森本信也編著)、「授業に活かす! 理科教育法」(東京書籍 左巻健男・小田切真・小谷卓也編著)、「若い先生のための理科教育学概論」(東洋館出版 畑中忠雄著)、「小学校指導法 理科」(玉川大学出版部 梅木信一編著)					
履修上の注意等	レポート様式はA4横書きです。					

【2339】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
生活科教育法		演習	長尾 明義	3年次	通年	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○	○			
授業概要			生活科の目標や内容（次期学習指導要領生活科の改善点）の理解をもとに、探検単元・遊び単元・飼育栽培単元・成長単元の指導内容や指導方法を指導案作成や模擬授業等を通取り入れながら、実践的理解と定着を目指した授業を展開する。授業においては、キャンパスの自然探検、身近な材料を使ったおもちゃの製作、秋の木の実で動物をつくる、自分物語の製作等の実習を取り入れながら、低学年児童の一人一人のよさや可能性を引き出す指導と評価、支援のあり方はどうあればよいかについて考え、実践的な指導力を習得する授業を展開していく。			単位認定の方法とフィードバックの有無		
			期末試験	—				
			期末レポート	10%		無		
			授業内試験	50%		有		
			授業内提出物	30%		有		
			授業内活動	10%		無		
			その他	—				
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		—		○		◎	
当該科目のキーワード	目標・内容・指導方法の理解		—		自分物語の作成		学習指導案作成・模擬授業	
授業時間外学修の指示	講義前日の予習や準備45分、当日の復習45分を行い、授業の到達目標①～④を達成するように努めること。							
授業の到達目標	生活科の実践的な指導力を習得することができる。 ①生活科の目標・内容を理解し、指導案作成に活用できる。 ②生活科の教材分析から学習指導案作成までの一連の方法や手順を理解し、作成することができる。 ③模擬授業等において、児童一人一人のよさや可能性を引き出す支援ができる。 ④製作を通して、友達とかかわり、自分との違いやよさを認め合うことができる。							
単位認定の要件	到達目標①～④の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	小テストやレポートによる理解度をチェックし、全体及び個別に助言する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	第1章 生活科の目標及び内容について。次期学習指導要領生活科について。（目標・内容・改善点の理解）						
	2	第1章 生活科の内容（1）、（2）、（3）、（4）について（内容の理解）						
	3	第1章 生活科の内容（5）、（6）、（7）、（8）、（9）について（内容の理解）						
	4	第2章 探検単元「大単元 あそびにいこうよ」について（指導内容・配慮事項）						
	5	第2章 学習指導案作成のための素材探し・キャンパスの春（自然探検・教材研究）						
	6	第2章 キャンパスマップの作成（学生同士の気付きの交流・児童の活動の予想）						
	7	第3章 小単元「春を 見つけたよ」の学習指導案の作成・実践例の提示（学習指導案作成）						
	8	第3章 小単元「春を 見つけたよ」の学習指導案の作成・目標・授業の展開・評価など（学習指導案作成）						
	9	第3章 小単元「春を 見つけたよ」・私の考えた授業・指導案をもとに発表・交流（模擬授業）						
	10	第4章 栽培単元について・指導内容・配慮事項（指導内容の理解・生活科の内容との関連）						
	11	第4章 栽培単元・指導の実際・指導内容・配慮事項（指導の実際・配慮事項）						
	12	第4章 飼育単元について・指導内容・配慮事項（指導内容の理解・生活科の内容との関連）						
	13	第5章 内容（8）「生活や出来事の交流」について（新設された背景。目指す児童像）						
	14	第5章 各単元と内容（8）との関連、気付きの交流の大切さ（気付きの質的な向上）						
15	第6章 生活科の指導法についてのまとめ（授業を通しての「気付き」について記述）							
教科書・教材	◇学習指導要領解説 生活編（文部科学省発行）							
参考書・参考文献等	◇文部科学省 教育課程企画特別部会配布資料 ◇教科書「みんなとまなぶ せいかつ」（学校図書） ◇教師用指導書（学校図書） ◇「季節の野草・山草図鑑」（日本文芸社 高村忠彦監修） ◇「葉で見わかる樹木」（小学館発行 森 将之著）							
履修上の注意等	探検を実際に行い、発見や驚きをマップに表す授業を予定しています。キャンパスの四季の移り変わりに関心を。							

【2339】 専門教育科目	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
生活科教育法	演習	長尾 明義	3年次	通年	児童学科

--	--	--	--	--	--

	回	内 容
	授業計画 (各回の内容 や到達目標)	16
17		第6章 「木の実でつくる」 秋の木の実を組み合わせて動物の製作 (配慮事項の理解)
18		第6章 「木の実でつくる」 秋の木の実を組み合わせて動物の製作 (配慮事項の理解)
19		第6章 「木の実でつくる」 秋の木の実を組み合わせて動物の製作 (接合・接着の工夫 配慮事項の理解)
20		第7章 探検単元「あそびにいこうよ」、秋のキャンパス探検 (活動のねらいの明確化)
21		第7章 秋のキャンパス探検。気づきをビンゴカードや発見カードに表す (季節の変化と気づき)
22		第7章 探検と通しての気づきを交流 (ふりかえりと気づきの交流・生活科と言語活動・教師の支援)
23		第8章 遊び単元について (単元のねらい、指導内容・生活科の内容との関連・幼児との交流)
24		第8章 単元「作ってあそぼう」・おもちゃづくり (教師の支援・配慮事項・自作のおもちゃで 遊び方の工夫)
25		第8章 グループ毎に遊び方を工夫・発表・遊んだ後の振り返り (気づきの交流・評価のあり方)
26		第9章 成長単元について (単元のねらい、指導内容、配慮事項)
27		第9章 「じぶん ものがたり」の製作・実践例の紹介 (単元のねらい・指導の留意点・配慮事項)
28		第9章 「じぶん ものがたり」の製作 (自分を振り返る・これからの自分の生き方を考える)
29		第9章 「じぶん ものがたり」の発表・交流 (自分自身への気づき・自立への基礎を養う生活科)
30		第10章 児童一人一人のよさや可能性を引き出し、自立への基礎を養う生活科 (教科目標の確認・実践化へ)

【2340】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
音楽科教育法			演習	一戸 智之	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			理論と実践に基づいた歌唱、ピアノ、簡易楽器、打楽器、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、和楽器等の基礎的な表現法及び指導法を体得するとともに、音楽科教育の実践研究の動向を分析した上で、学習指導要領に明示されている表現及び鑑賞の活動を展開していくための前提となる【共通事項】を踏まえた適切な指導性の意義を考察し、指導案作成と模擬授業を通して実践的な指導方法及び技術の獲得を目指す。				期末試験 60% 有 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 20% 有 授業内活動 20% 無 その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	◎		◎		○		○
当該科目のキーワード	音楽理論 歌唱法、ピアノ伴奏法		指導方法・技術		グループ活動、協調性		実践力、応用力
授業時間外学修の指示	実技練習についてはピアノ練習室を積極的に活用し、毎日の予習・復習を徹底すること。(受講にあたり、毎週、45分以上の予習・復習を心がけること)						
授業の到達目標	①表現及び鑑賞の活動を展開していくために必要な歌唱法およびピアノ、リコーダー、和楽器等の基礎的な奏法とそれらの指導法の理解 ②初等教育で必要とされる基礎的な音楽理論の理解 ③全学年（1～6年生）の歌唱共通教材及び鑑賞教材の指導のための楽曲の理解と曲想の解釈の理解 ④学習指導要領に基づいた音楽科教育の意義、指導方法・技術、評価の方法の実践的理解						
単位認定の要件	到達目標の①～④の合計が60点以上						
単位認定方法へのフィードバック	筆記試験は採点し模範解答と一緒に返却する。実技試験は全員による演奏会形式で行う。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	本授業の目的、概要と計画					
	2	学習指導要領音楽科の目標					
	3	学習指導要領音楽科の各学年の指導内容 簡易楽器及び打楽器の奏法と指導法					
	4	歌唱共通教材と鑑賞教材について 子どもの音楽の理解と音楽的発達について					
	5	鍵盤ハーモニカの奏法 音楽理論の基礎（拍子とリズム）					
	6	鍵盤ハーモニカの指導法 音楽理論の基礎（音程）					
	7	鍵盤ハーモニカによる音楽づくり 音楽理論の基礎（音階と調）					
	8	リコーダーの奏法 音楽理論の基礎（和音とコードネーム）					
	9	リコーダーの指導法 音楽理論のまとめ					
	10	リコーダー・鍵盤ハーモニカ・歌唱による音楽づくり					
	11	ICTを活用した鑑賞領域の指導法（曲想と音楽の構造の理解）					
	12	吹奏楽器の奏法と指導法 合唱及び合奏における指揮法とその実践的指導法					
	13	和楽器の奏法と指導法					
	14	〔共通事項〕を踏まえた表現及び鑑賞の活動における授業実践とその指導法研究					
15	音楽科の評価 学習指導要領音楽科のまとめ						
教科書・教材	「小学校課程のための教科教育法（音楽編）」（教育芸術社）、「小学校音楽1年～6年」（教育芸術社）、「学生の音楽通論」（音楽之友社）						
参考書・参考文献等	小学校学習指導要領音楽科、小学校学習指導要領解説音楽編（文部科学省）						
履修上の注意等	実技については毎日の予習・復習に心がけること。						

【2341】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
図画工作科教育法		演習	蝦名 敦子	3年次	通年	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要			図画工作科の学習指導要領について、材料や用具、子どもの実態、主題論の観点から分析的に理解を進め、実践的に指導内容の表現と鑑賞の教材研究に取り組む。それらの基礎的知識や技術を基に、題材を考案し教材化して学習指導案を作成する。また、全体の授業の中で主な内容ごとに総括する場面を設け、理論と実践を兼ね備えた学習を展開する。			単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	60% 有
						授業内活動	40% 有
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	○		○		○		◎
当該科目のキーワード	学習指導要領と、表現・鑑賞の指導内容と方法の理解		主体的・協働的造形活動		地域に開かれた造形教育		授業の指導計画と方法の理解
授業時間外学修の指示	日常、日本及び諸外国の美術作品や暮らしの中の作品に触れる機会を持つこと。						
授業の到達目標	学習指導要領を通して図画工作の学習内容について、多角的な理解ができ、実際に表現や鑑賞の実践を通して、指導に必要な基礎的知識や技術を習得する。また、自ら題材を考案し、教材化して、安全面、環境を考慮した学習指導案を作成することができるようになる。						
単位認定の要件	到達目標の達成率が60%以上。						
単位認定方法へのフィードバック	提出した作品やワークシート、学習指導案などについて、みんなで鑑賞したり、指導を加える。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	学習指導要領とは。学習指導要領の改訂とこれからの図画工作科のあり方、目標。					
	2	学習指導要領 分析1 (材料・用具について)					
	3	学習指導要領 分析2 (子どもの実態把握から)					
	4	学習指導要領 分析3 (主題論から)					
	5	学習指導要領のまとめ 系統性 (幼稚園→小学校→中学校) (ワークシート)					
	6	表現 (1) 造形遊びについて (実践例の紹介)					
	7	表現の実践1 造形遊び① (材料の準備)					
	8	造形遊び② (造形活動と鑑賞)					
	9	造形遊び③ (造形活動の振り返り)					
	10	表現 (2) 主題表現-絵や立体、工作に表す活動について (実践例の紹介)					
	11	表現の実践2 絵 (コラージュ) ① (モチーフの収集と発想・構想)					
	12	絵 (コラージュ) ② (創造的技術)					
	13	絵 (コラージュ) ③ (作品の完成)					
	14	鑑賞の実践1 (自分たちの作品鑑賞)					
15	実践のまとめ 同一材料 (古紙) を使った造形遊びと主題表現 (コラージュ) を振り返り、材料と密接に関連する表現内容の違いについて総括する。(ワークシート)						
教科書・教材	「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省、「幼稚園教育要領」文部科学省						
参考書・参考文献等	授業の中で適宜、紹介する。						
履修上の注意等	指示に従って、必要な材料・用具などは各自準備すること。						

【2341】 専門教育科目 図画工作科教育法	授業形態 演習	担当教員名 蝦名 敦子	開講年次 3年次	開講時期 通年	開講学科 児童学科
授業計画 (各回の内容 や到達目標)	回	内 容			
	16	鑑賞 2 美術作品の鑑賞 1 日本や地域の美術作品			
	17	鑑賞 3 美術作品の鑑賞 2 諸外国の美術作品			
	18	鑑賞のまとめ—鑑賞の内容と指導法			
	19	表現の実践 3 立体 (モチーフの収集と発想・構想)			
	20	立体 (創造的技術)			
	21	立体 (鑑賞)			
	22	学習指導案とは。(学習指導案の形式の理解)			
	23	題材考案 (実践例の紹介、教科書の検討)			
	24	教材研究① (対象学年自由、各教材を準備する。)			
	25	教材研究② (各自教材を製作する。)			
	26	学習指導案の作成①			
	27	学習指導案の作成②			
	28	学習指導案の提出とチェック			
	29	学習指導案の発表と導入部分の模擬授業 (前半の学生)			
30	学習指導案の発表と導入部分の模擬授業 (後半の学生)、総括				

【2342】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
家庭科教育法		演習	葛西 美樹、今村 麻里子 工藤 寧子	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要			家庭科教育の意義、現代の生活課題などを学ぶ。また、学習指導要領に基づく家庭科の特質、目標及び内容について理解し、学習指導の計画を立てる能力を養う。学習指導法・教育評価等を学ぶことで、指導計画や授業を構想するとき家庭科の授業の特徴を把握できるようにする。			単位認定の方法と フィードバックの有無
						期末試験 70% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 10% 有
						授業内活動 20% 有
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		—		—	
当該科目のキーワード	家庭科教育の意義		—		—	
授業時間外学修の指示	日常生活を通して家庭科に関する知識習得に努め、次回の授業までに90分の復習予習を要する。					
授業の到達目標	①家庭科教育の意義について理解する。 ②家庭科の特性を捉えた指導計画を立て、学習指導案を作成することができる。 ③模擬授業の実践及び授業観察を通して、指導方法を理解する。					
単位認定の要件	到達目標の①～③の合計が60%以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック	期末試験：試験後に正答を提示する。 授業内提出物、活動：模擬授業や学習指導案等について、授業内でコメントする。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	小学校家庭科教育の意義とねらい (担当：葛西)				
	2	小学校家庭科教育のあゆみ (担当：葛西)				
	3	家庭科の学習指導要領 (担当：葛西)				
	4	家庭科における学習指導 (担当：工藤)				
	5	家庭科における学習評価 (担当：工藤)				
	6	家庭科における指導と評価の計画 (担当：工藤)				
	7	学習指導案の作成 (担当：今村)				
	8	小学校家庭科の授業づくり (担当：今村)				
	9	「日常の食事と調理の基礎」の課題 (担当：今村)				
	10	「日常の食事と調理の基礎」の学習のねらい (担当：今村)				
	11	「日常の食事と調理の基礎」の授業例 (担当：今村)				
	12	「日常と食事と調理の基礎」の教材研究 (担当：今村)				
	13	「家庭生活と家族」の課題と学習のねらい (担当：工藤)				
	14	「身近な消費生活と環境」の課題と学習のねらい (担当：工藤)				
15	「家庭生活と家族」「身近な消費生活と環境」の授業例 (担当：工藤)					
教科書・教材	わたしたちの家庭科5・6 (開隆堂)、新編 新しい家庭5・6 (東京書籍)、この他授業内で指示する。					
参考書・参考文献等	小学校学習指導要領解説 家庭編					
履修上の注意等	家庭科実習 (後期開講) とともに履修することが望ましい。					

【2342】 専門教育科目	授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
家庭科教育法	演習	葛西 美樹、今村 麻里子 工藤 寧子	3年次	通年	児童学科
授業計画 (各回の内容 や到達目標)	回	内 容			
	16	「家庭生活と家族」「身近な消費生活と環境」の教材研究(担当:工藤)			
	17	「快適な衣服」「快適な住まい」の課題と学習のねらい(担当:葛西)			
	18	「快適な衣服」「快適な住まい」の授業例(担当:葛西)			
	19	「快適な衣服」「快適な住まい」の教材研究(担当:葛西)			
	20	「生活に役立つ物の製作」の課題と学習のねらい(担当:葛西、工藤)			
	21	次期学習指導要領について(担当:葛西)			
	22	模擬授業学習指導案の作成・授業観察の方法(担当:葛西)			
	23	模擬授業・協議会〔第1グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
	24	模擬授業・協議会〔第2グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
	25	模擬授業・協議会〔第3グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
	26	模擬授業・協議会〔第4グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
	27	模擬授業・協議会〔第5グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
	28	模擬授業・協議会〔第6グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)			
29	模擬授業・協議会〔第7グループ〕(担当:葛西、今村、工藤)				
30	模擬授業全般について、まとめ(担当:葛西、今村、工藤)				

【2343】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
体育科教育法		演習	上野 秀人	3年次	通年	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	30	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			<p>小学校学習指導要領解説書 体育編に沿い、学習指導計画の目的、ねらい、作成法等について講義する。特に、場の工夫や教材開発といった教師の手だてについて解説、意見交換を行う。</p>			単位認定の方法と フィードバックの有無 期末試験 20% 無 期末レポート 10% 無 授業内試験 30% 無 授業内提出物 — 授業内活動 20% 無 その他 20% 無
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	体育科教育学、授業づくり	構想力	協働性	課題解決力		
授業時間外学修の指示	授業の復習及び体育科学習指導案作成に向けた情報収集に努めること。					
授業の到達目標	目 標：小学校学習指導要領解説書 体育編の概要が理解できるとともに、学習指導計画の目的、ねらい、作成法等が理解できるようにする。 テーマ：「体育の授業づくり基礎」					
単位認定の要件	到達目標の総合的達成度が60%以上。					
単位認定方法へのフィードバック						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	体育科教育とは				
	2	体育学習と法				
	3	体育の目標及び便益				
	4	小学校学習指導要領 体育編の総括				
	5	教材化・手だての工夫、運動の特性				
	6	学習指導計画の概要				
	7	指導案の作り方				
	8	授業づくり1 (単元レベルの構想)				
	9	授業づくり2 (指導計画と評価計画)				
	10	授業づくり3 (本時レベルの構想)				
	11	授業づくり4 (手だての工夫)				
	12	授業づくり5 (指導案記載事項の整合性、指導と評価)				
	13	保健学習に関する基本概念				
	14	保健授業の指導と評価(1)				
15	保健授業の指導と評価(2)					
教科書・教材	「小学校学習指導要領解説 体育編」 文部科学省					
参考書・参考文献等	適時示す					
履修上の注意等	書式に合せた学習指導案作成の基礎力習得、及び、積極的な意見交換を期待する。					

【2344】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
道徳教育の指導法		講義	齋藤 雅俊	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○	○	保育士
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
・「特別の教科 道徳」の指導のための理論と実践を学ぶ。 ・学校教育において道徳という特別の時間が生まれ、辿ってきた歴史を概観し、学習指導要領の内容や道徳科の特質をふまえたさまざまな指導方法にも精通していくことで、これからの道徳教育を創り上げていくための基礎力と応用力を形成していく。						期末試験 40% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 30% 有
						授業内活動 30%
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		◎		—	
当該科目のキーワード	道徳教育の歴史と学習指導要領の理解		模擬授業での発表や質疑応答			
授業時間外学修の指示	次回講義資料を事前に配布するので、目を通しておくこと。事前に指導案の作成や模擬授業の準備を指示する場合もある。					
授業の到達目標	①道徳の歴史や理念について理解する。 ②学習指導要領で掲げられている道徳の目標や内容について理解する。 ③道徳教育のさまざまな指導法について理解する。 ④理解したことを指導案の作成や授業実践に生かすことができる。					
単位認定の要件	期末試験（100点×0.4）＋授業内提出物（30点）＋模擬授業等の活動（30点）＝60点以上 ※小数点以下切捨					
単位認定方法へのフィードバック	授業内提出物や期末試験については返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	道徳とは何か（理念と本質）				
	2	これまでの道徳教育の歴史				
	3	現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラルなど）				
	4	子どもの心と道徳性の発達				
	5	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容①（A 主として自分自身に関すること）				
	6	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容②（B 主として人との関わりに関すること）				
	7	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容③（C 主として集団や社会との関わりに関すること）				
	8	学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標と主な内容④（D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること）				
	9	学校における教育活動全体を通じた指導とカリキュラムマネジメント				
	10	道徳科におけるさまざまな指導法の例				
	11	道徳科におけるさまざまな教材とその活用について				
	12	道徳科の指導案作成について				
	13	模擬授業の実践①（A班を中心に）				
	14	模擬授業の実践②（B班を中心に）				
15	道徳科の特性をふまえた学習評価のあり方（個人内評価）について					
教科書・教材	『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳』（文部科学省）※インターネットなどでダウンロードしてもよい。					
参考書・参考文献等	パワーポイントによるまとめプリントを随時配布する。なお、配布プリントが多いため、各自綴じるためのファイルを用意すること。					
履修上の注意等	新聞・テレビなどの教育関連情報に関心をはらうこと。また、出欠の不正（中抜け、無断退出、代返、コメントペーパー代筆など）の他、成績評価に関わる全ての不正については単位認定を不可とする場合がある。					

【2348】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
健康の指導法		演習	小関 潤子 (河内 見地子)	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要		あそびの持つ教育的意義をより一層深め、領域健康に示されている子どもの心と体、子どもの活動、保育者の役割など、段階的に学ぶことにより、理論・実技の両面から活動の意味を探る。授業後半に演習活動として行う模擬保育では、5領域を考慮した各年齢に即応したあそびの研究を行い、発育発達に合った子ども中心の運動遊びを考えることで遊びの援助者として保育の在り方を考えるものとする。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	50% 有
						授業内提出物	20% 有
						授業内活動	30% 有
						その他	—
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
当該科目のキーワード	子どもの発育発達の理解	—	社会的態度の育成	運動遊びの指導法			
授業時間外学修の指示	幼児のあそびに興味・関心を持ち、現代の子どもの様子を把握しながら、将来的指導性への理解に努める。講義の予習、復習45分。						
授業の到達目標	運動あそびの基礎理論をもとに、体育的活動の重要性を考える。						
単位認定の要件	心身ともに健康維持に努め、授業参加状況80%以上が望ましい。						
単位認定方法へのフィードバック	実技試験等の評価観点を示し、試験後に評価する。レポートは採点して返却し、授業中に解説する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	授業の概要（目的、計画、履修上の留意事項）について					
	2	子どもの健康教育のとらえ方、リトミック（音符表現）他					
	3	運動発達と子どもの体力、リトミック（音階表現）、体操あそび 他					
	4	鬼あそびの教育的意義、ゲームあそびの重要性、リトミック、体操あそび 他					
	5	手あそび・指あそびの展開法、リトミック、体操あそび、表現あそび 他					
	6	小型の移動のできる遊具あそびについて、手あそびの研究1班					
	7	ボールあそびの特徴（1）－ボールを使った体操、手あそびの研究2班					
	8	ボールあそびの特徴（2）－ボールを使った集団あそび、手あそびの研究3班					
	9	指導案と立案の手順、輪あそび、縄あそび、リトミック 他					
	10	模擬保育の計画、運動あそびの展開、表現あそび 他					
	11	模擬保育（3歳児）－保育研究と教材研究及び討議（グループディスカッションと振りかえり）					
	12	模擬保育（4歳児）－保育研究と教材研究及び討議（グループディスカッションと振りかえり）					
	13	模擬保育（5歳児）－保育研究と教材研究及び討議（グループディスカッションと振りかえり）					
	14	課題研究と技術の確認					
15	子どもの健康課題と運動あそびの関連性について						
教科書・教材	近藤充夫ほか著「領域 健康 三訂版」（同文書院）						
参考書・参考文献等	文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省編「保育所保育指針解説書」						
履修上の注意等	教師・子ども、両者の心情を理解し、前向きに取り組むこと。						

【2349】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
人間関係の指導法		演習	吉田 裕美子	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	○	○	
授業概要		幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の基本理念を踏まえた上で、子どもの人間関係をどのように捉えるのか、指導はどのようにあるべきかについて、日々の保育の中で起こりうる子どもの「人との関わり」に関する具体的な事例を考察する。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	40% 有
						授業内試験	—
						授業内提出物	40% 有
						授業内活動	20% 有
						その他	—
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	◎	—	—		
当該科目のキーワード		各年齢段階の人間関係の理解	事例検討・ロールプレー	—	—		
授業時間外学修の指示		講義前日の予習45分及び当日の復習45分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。					
授業の到達目標		保育の専門家として子どもの人間関係を指導するスキルを向上させるために、 ①乳幼児の人間関係の発達プロセスについて理解できる。 ②グループワークに参加し、人間関係の指導に関する意見交換を行い、他者の考えを知る。 ③他者との意見交換を通じ、様々な子どもの人間関係を支援・対応するための着眼点を理解し、自分なりに適切な方法を考え出すことができる。					
単位認定の要件		到達目標①～③の合計が60点以上であること					
単位認定方法へのフィードバック		レポートなどの提出物にコメントを付けて返却					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	領域「人間関係」とは				
		2	乳幼児期における人との関わりの発達①「0・1・2歳児を中心に」				
		3	乳幼児期における人との関わりの発達②「3・4・5歳児を中心に」				
		4	遊びの中で育つ人との関わり①～遊びの意義と重要性～ 「保育における遊びの大切さ」「遊びと仲間関係」				
		5	遊びの中で育つ人との関わり②～けんかやいざこざから生まれるもの～ 「相手の気持ちを考える」「協同性の育ち」				
		6	人との関わりを育てる保育の実践①「人と関わる力が育っていくプロセスとは」				
		7	人との関わりを育てる保育の実践② 「保育の中で気になる子どもの姿」「人と関われない、関わらない子どもたち」				
		8	人との関わりが難しい子どもへの支援 「園生活に馴染めない子の育ち」「悩む親を支える」				
		9	保育における個の育ちと集団の育ちについて「集団の中での役割と責任・道徳性のめばえ」				
		10	人間関係の育ちを育む環境①～保育者同士の人間関係～ 「子どもの育ちを支える保育者同士の関係とは」				
		11	人間関係の育ちを育む環境②～保護者と保育者の人間関係～ 「園と家庭が子どもを育てる」「保護者同士の関係を作る」「子育て支援とは何か」				
		12	領域の相互の関連性と保育展開①～指導計画の意義・作成・実践例～ 「3歳児の指導計画と実践」				
		13	領域の相互の関連性と保育展開②～指導計画の意義・作成・実践例～ 「4歳児の指導計画と実践」				
		14	領域の相互の関連性と保育展開③～指導計画の意義・作成・実践例～ 「5歳児の指導計画と実践」				
		15	まとめ「演習の振り返りとその先の課題」				
教科書・教材		特になし					
参考書・参考文献等		小田豊・奥野 正義 編著『人間関係』 田村 美由紀・室井 佑美 著<領域>人間関係ワークブック					
履修上の注意等		グループワークに積極的に参加し、他書と議論を行うこと。議論した内容や各班の意見を整理し、よくまとめておくこと。					

【2350】 専門教育科目			授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
環境の指導法			演習	佐藤 崇之	3年次	後期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			単位認定の方法と フィードバックの有無	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士		
授業概要			子どもの特質や特徴を知り、彼らの置かれている生活環境および彼らに関わらせたい自然環境を理解し、子どもとの良好なコミュニケーションの取り方を試行したい。その試みをおこなう授業において行う中で、子どもが自ら自然の認識を高めて進歩し発展するための、支援・指導を行う技術が向上し、環境に対する考え方も幅が広がると考える。その具体的な実践のあり方を考察し、実行に移すことができる可能性を検討する。				期末試験	—	
							期末レポート	40%	無
							授業内試験	—	
							授業内提出物	30%	有
							授業内活動	30%	無
							その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
	◎		○		○		○		
当該科目のキーワード	環境の理解 自然の指導への導入		コミュニケーション能力、問題解決能力		幼児教育の指導力		発表 レポート		
授業時間外学修の指示	日頃から、自然を介した子どもとのコミュニケーションを模索し、そのあり方を考えてください。								
授業の到達目標	幼児が、取り巻く自然や人々と良好な関係を築き、さまざまなことを体験・経験していくことが、成長・発達最重要課題ととらえる。 そのために、①子どもの成長と原体験や遊びの重要性を認識し、②子どもと環境の相互のはたらきを考察するとともに、③幼児教育における環境に関する教材研究について討論を重ねていくこととする。 テーマは、子どもの環境の認識、遊びの新(再)開発、飼育と栽培、新たな行事の体験の提案、その他とする。								
単位認定の要件	到達目標の①～③の合計が60点以上。								
単位認定方法へのフィードバック	発表として取り扱う授業内提出物は、最終回に総評を行う。								
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容							
	1	環境を指導で取り扱う意義							
	2	環境教育の歴史							
	3	学習の場や地域社会における環境教育							
	4	環境教育教材の体験：野生生物を中心に							
	5	環境教育教材の体験：水環境を中心に（水の循環に着目して）							
	6	環境教育教材の体験：水環境を中心に（人と水の関わりに着目して）							
	7	自然を取り入れた行事：暖かくなると							
	8	自然を取り入れた行事：暑くなると							
	9	自然を取り入れた行事：涼しくなると							
	10	自然を取り入れた行事：寒くなると							
	11	生き物の飼育・栽培と子どもの認識							
	12	環境の指導に関する受講生の発表会・討論会：春から夏							
	13	環境の指導に関する受講生の発表会・討論会：夏から秋							
	14	環境の指導に関する受講生の発表会・討論会：秋から冬							
15	まとめ：子どもと環境のあり方を考える								
教科書・教材	特になし								
参考書・参考文献等	幼稚園教育要領，保育所保育指針。その他，適宜プリントを配付する。								
履修上の注意等	講義形式も交えつつ，演習として体験や発表，意見交換を行いながら授業が展開されます。								

【2352】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
表現の指導法 I (1)		演習	諏訪 才子	3年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
授業概要			子どもの成長・発達と音楽表現、音楽教育について総合的に理解する。また、これに基づいて、ピアノによる教材の弾き歌い、鍵盤ハーモニカ、簡易な打楽器、そしてリコーダーの演奏法とその初歩的指導法を中心に習得する。			単位認定の方法とフィードバックの有無		
						期末試験	—	
						期末レポート	—	
						授業内試験	80%	有
						授業内提出物	—	
						授業内活動	20%	有
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		◎		○	
当該科目のキーワード	子どもの成長・発達、歌唱、器楽		音楽表現		アンサンブル		音楽活動	
授業時間外学修の指示	演奏曲を毎日20分以上練習すること。							
授業の到達目標	保育内容の領域「表現」について、音楽的視点から、子どもの成長・発達に即して理解することができる。また、1・2年次で習得したピアノや声楽などの基礎的な演奏力と知識をさらに応用して、弾き歌い、様々な楽器の知識・奏法を中心に、音楽表現の指導法を音楽教育の広い領域の中で実践的に身につける。							
単位認定の要件	実技試験と授業参加状況・平常練習状況の総合評価が60点以上。							
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動・発表の自己評価、講評及び振り返りレッスンを行う。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	保育園・幼稚園・小学校低学年での音楽表現の指導概念						
	2	子どもの音楽的成長と発達						
	3	子どもの歌唱 春の歌弾き歌い (1) 歌唱法						
	4	春の歌弾き歌い (2) 伴奏法						
	5	生活の歌弾き歌い (1) 歌唱法						
	6	生活の歌弾き歌い (2) 伴奏法						
	7	模擬保育 (1) 指導案作成 (目的・内容・進め方—導入・展開・まとめ)						
	8	模擬保育 (2) 模擬保育と討議						
	9	子どもの器楽 簡易な打楽器の特徴と奏法						
	10	鍵盤ハーモニカの特徴と奏法・アンサンブル						
	11	リコーダーの特徴と奏法・アンサンブル						
	12	夏・行事の歌弾き歌い						
	13	弾き歌い個人指導 (1) 歌唱法・伴奏法						
	14	弾き歌い個人指導 (2) 音楽表現						
15	弾き歌い演奏発表							
教科書・教材	「音楽表現の理論と実際」桶谷弘美・吉良武志他共著 (音楽之友社)、「保育のうた・こどものうた120」長谷川久美子編著 (シンコー・ミュージック社)							
参考書・参考文献等	「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省							
履修上の注意等	ソプラノリコーダー (パロック式・イギリス式に限る) を準備すること。また、購入時は担当教員の指示を得ること。							

【2353】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
表現の指導法 I (2)		演習	諏訪 才子	3年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
授業概要		わらべ歌、遊び歌、そして子どもの歌の合唱を通して、多角的に子どもの歌と歌遊びについて理解を深める。また、小太鼓・大太鼓、鍵盤打楽器の演奏法と合奏の初歩的指導法を習得し、さらに、コードネームを活用した和音伴奏による弾き歌いを創造的に体験する。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	80% 有
						授業内提出物	—
						授業内活動	20% 有
						その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。
	◎		○		◎		○
当該科目のキーワード	子どもの歌唱・器楽、創作		音楽表現		合唱・合奏		音楽活動
授業時間外学修の指示	演奏曲を毎日20分以上練習すること。						
授業の到達目標	1・2年次で習得したピアノや声楽などの基礎的な演奏力と知識をさらに応用して、わらべうた、遊びうた、様々な楽器の知識・奏法、及び子どもの歌創作を中心に、音楽表現の指導法を音楽教育の広い領域の中で実践的に身につける。						
単位認定の要件	実技試験と授業参加状況・平常練習状況の総合評価が60点以上。						
単位認定方法へのフィードバック	授業内活動・発表の自己評価、講評及び振り返りレッスンを行う。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
	1	わらべ歌・遊び歌					
	2	子どもの輪唱・合唱					
	3	鍵盤打楽器の特徴と奏法					
	4	鍵盤打楽器 アンサンブルと合奏					
	5	小太鼓・大太鼓特徴と奏法					
	6	小太鼓・大太鼓 アンサンブルと合奏					
	7	秋の歌弾き歌い					
	8	冬の歌弾き歌い					
	9	子どもの合奏 子どもの歌・マーチ・クリスマスソングメドレー					
	10	子どもの歌創作 (1) コードネームによる簡易伴奏付け					
	11	子どもの歌創作 (2) コードネームを活用した子どもの歌創作					
	12	子どもの歌創作 (3) コードネームを活用した子どもの歌創作発表					
	13	歌唱・弾き歌い個人指導 (1) 歌唱法・伴奏法					
	14	歌唱・弾き歌い個人指導 (2) 音楽表現					
	15	歌唱・弾き歌い演奏発表					
教科書・教材	「音楽表現の理論と実際」桶谷弘美・吉良武志他共著 (音楽之友社)、「保育のうた・こどものうた120」長谷川久美子編著 (シンコー・ミュージック社)						
参考書・参考文献等	「幼稚園教育要領」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省						
履修上の注意等	ソプラノリコーダーは、毎回用意すること。						

【2354】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
表現の指導法Ⅱ(1)		演習	岩井 康頼	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			○			△
幼児の造形活動の理解や支援に必要な表現能力(描画、製作)、発達段階や表現形式、色彩の心理など基礎的知識を習得する。また、幼児期の造形表現の年齢的展開を基礎として、身近な素材を通じて製作・発表し、具体的展開の技術を習得する。			期末試験		—	
			期末レポート		—	
			授業内試験		20%	無
			授業内提出物		40%	無
			授業内活動		40%	無
			その他		—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	○		—		○	
当該科目のキーワード	年齢別発達の特徴の理解		—		グループ活動における協調性	
授業時間外学修の指示	①博物館や展示館で鑑賞する。②大学の図書館で資料収集する。					
授業の到達目標	幼児と共に感じ、活動できる能力を涵養するために、幼児の造形活動の理解や援助に必要な、年齢別発達の特徴や表現能力の発達段階、表現形式などの基礎的知識を習得する。また、各年齢の教材研究や安全面、環境を考慮した、視聴覚教材の製作や発表をする。					
単位認定の要件	授業内提出物及び発表会等の評価の合計が60%以上。					
単位認定方法へのフィードバック	①授業参加状況を評価のポイントにする。②成果物の仕上がりや指導観点の合致					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	領域「表現とあそび」の狙い及び内容について。「造形活動」の意味と本質について、「ドロ遊び」と「かげ絵あそび」など、ムービーによる解説				
	2	造形活動の理解と支援に必要な描画材料等の説明と概要。「モノプリントあそび」と「フロッタージュあそび」など、ムービーによる解説				
	3	身体言語を使ったワークショップ。人と人とのコミュニケーションの実践を擁するワークショップ。人物クロッキーの線描表現。				
	4	身体言語あそび」によるワークショップとコミュニケーションの実践。人物クロッキーの線描表現とその応用編。				
	5	人物クロッキーの線描表現とその応用編。水彩画「樹木を描く」1：下書き				
	6	人物クロッキーの線描表現とその応用編。水彩画「樹木を描く」2：着色				
	7	人物クロッキーの線描表現とその応用編。水彩画「樹木を描く」3：合評会				
	8	身近な素材による教材研究 ①スチレン版画。共同制作によるコンセプト(アイデア)				
	9	身近な素材による教材研究 ①スチレン版画。共同制作と描画材の工夫				
	10	身近な素材による教材研究 ①スチレン版画。共同による「刷り」				
	11	身近な素材による教材研究 ①スチレン版画。「刷り」と合評会				
	12	身近な素材による教材研究 ②小彫刻の世界「物体詩」ーオブジェポエムによる詩歌				
	13	身近な素材による教材研究 ②小彫刻の世界「針金彫刻(ワイヤーアート)」の実践				
	14	身近な素材による教材研究 ②小彫刻の世界「廃材芸術(ジャンクアート)」の実践				
15	「廃材芸術(ジャンクアート)」合評会とまとめ					
教科書・教材	『障害者アートの現在地』岩井康頼監修、弘前大学出版会					
参考書・参考文献等	『心おどる造形活動ー幼稚園・保育園に求められるものー』成田・孝著、大阪教育出版					
履修上の注意等	事前に参考資料に目を通し、必要な材料等を準備しておくこと。					

【2355】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
表現の指導法Ⅱ(2)		演習	岩井 康頼	3年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
授業概要			○		△	
視聴覚教材の種類や特徴などの基礎的知識の習得や、パネルシアター・衣装デザインの制作等の発表を通して、表現方法・技術・演技方を習得する。また、保育の活動において素材・材料を整え、環境をどのように設定し展開するか、共同製作の実践を踏まえて分析できるよう考察する。					単位認定の方法とフィードバックの有無	
					期末試験	—
					期末レポート	—
					授業内試験	20% 無
					授業内提出物	40% 無
					授業内活動	40% 無
					その他	—
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	○		—		○	
当該科目のキーワード	視聴覚教材の理解		—		グループ活動における協調性	
授業時間外学修の指示	①博物館や展示館で鑑賞する。②大学の図書館で資料を収集する					
授業の到達目標	幼児の遊びやイメージを豊かにし、感性を養うために必要な視聴覚教材について理解し、パネルシアター・衣裳デザインの制作を通して、表現方法・技術・演技方を習得する。また、幼児と作る環境の構成の制作・発表を通して共同製作の具体的展開の技術を習得し、指導上の留意点や安全面を考慮しながら研究する。					
単位認定の要件	①授業参加状況を評価のポイントにする。②成果物の仕上がりや指導観点の合致					
単位認定方法へのフィードバック	特になし					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	表現の多様性と変化し続ける美術の動向について。幼児の「あそび」と「造形」。				
	2	身近な素材による教材研究① フロッタージュ（擦りだし）① 学校内より採取。				
	3	身近な素材による教材研究② コラージュ② アッサンブラージュ				
	4	身近な素材による教材研究③ アッサンブラージュ+森・海・空（水彩絵具・貼り絵で表現する）共同制作				
	5	身近な素材による教材研究④ 「もし服飾デザイナーになったら」（アイデアスケッチ）				
	6	身近な素材による教材研究④ 「もし服飾デザイナーになったら」（舞台を意識しながら）				
	7	身近な素材による教材研究④ 「もし服飾デザイナーになったら」～ファッションショウ～（音楽もつけて）				
	8	身近な素材による教材研究⑤ 新聞紙でスケール感を体験（身の丈以上）レインスタレーション。共同制作				
	9	身近な素材による教材研究⑥ 木の枝・廃材等による立体制作 によるレインスタレーション。共同制作				
	10	身近な素材による教材研究⑥ 木の枝・廃材等による立体制作 によるレインスタレーション。共同制作				
	11	「パネルシアター」グループ製作⑦、（テーマ・内容・デザインを検討する）				
	12	「パネルシアター」グループ製作⑦幼児と作る環境の研究の理解。				
	13	「パネルシアター」グループ製作⑦（基礎作り、分担して小物を作る。）				
	14	「パネルシアター」グループ製作⑦（完成させる。発表会の準備をする。）				
15	「パネルシアター」グループ製作⑦ 鑑賞会、グループ発表、学生の感想発表、講評 まとめ					
教科書・教材	『害者アートの現在地』岩井康頼監修、弘前大学出版会 図画工「作学習指導書1、用具材料編、開隆堂（文部省検定教科書図工11準拠）					
参考書・参考文献等	『心おどる造形活動—幼稚園・保育園に求められるもの—』 成田・孝著、大阪教育出版					
履修上の注意等	事前に、参考資料に目を通し必要な材料等を用意しておく。					

【2365】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
教育実習(幼)		実習	教職課程委員会	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
4			必修	選択	小学校	幼稚園 保育士	
				○	○		
授業概要		実習はこれまで学んだ知識や技術を実際の現場で先輩の先生方からの指導を受けながら、具体的内容を内在するところに意義がある。指導内容は専門的事項から一般的なもので多岐にわたるが、実習に対しての心構えや実習中の課題意識、事後の課題の明確化まで総合的にとらえ、その結果を将来的資質向上にも役立てていく。				単位認定の方法と フィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	40% 有
						授業内活動	40% 有
						その他	20%
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		○	○	○	◎		
当該科目のキーワード		実習の意義	幼児への関わり方	職員との協働	自己課題		
授業時間外学修の指示		各自教材研究をすること					
授業の到達目標		1. 実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、課題を明確にすることにより内容を深める。 2. 実習の意義・課題、指導計画の立案、教材研究、保育者の役割を知る。					
単位認定の要件		参加率80%、到達目標80%以上					
単位認定方法へのフィードバック		指導計画案や日案などの提出物にコメントを付けて返却					
授業計画(各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	実習総合オリエンテーション				
		2	観察実習(附属幼)の心得				
		3	実習希望調査、内諾のとり方				
		4	実習先への事務手続き、調査書作成				
		5	観察・参加実習(附属幼)の心得				
		6	保育実技(1)絵本、紙芝居の選び方・語り聞かせ				
		7	保育実技(2)廃品の活用の仕方、教材について				
		8	保育実技(3)廃品を活用して教材づくり、その指導法・発表				
		9	指導計画の意義、指導計画の作成				
		10	指導計画の作成と実際、指導案の作成				
		11	実習録の記載要領について				
		12	実習直前、諸連絡				
		13	評価の確認				
		14	実習反省録作成				
		15	実習体験報告会				
教科書・教材		『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』					
参考書・参考文献等		特になし					
履修上の注意等		実習への意欲や期待感をもち、課題意義に取り組む姿勢で臨む。					

【2366】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
事前事後指導(幼)		演習	教職課程委員会	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○	○	
授業概要		<p>実習はこれまで学んだ知識や技術を実際の現場で先輩の先生方からの指導を受けながら、具体的内容を内在するところに意義がある。指導内容は専門的事項から一般的なもので多岐にわたるが、実習に対しての心構えや実習中の課題意識、事後の課題の明確化まで総合的にとらえ、その結果を将来的資質向上にも役立てていく。</p>				単位認定の方法と フィードバックの有無 期末試験 — 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 40% 有 授業内活動 40% 有 その他 20%
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	≪知識・理解≫ 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	≪汎用的技能≫ コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	≪態度・志向性≫ 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	≪総合・統合≫ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	実習の意義	幼児への関わり方	職員との協働	自己課題		
授業時間外学修の指示	各自教材研究をすること。講義前日の予習20分及び当日の復習25分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。					
授業の到達目標	1. 実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、課題を明確にすることにより内容を深める。 2. 実習の意義・課題、指導計画の立案、教材研究、保育者の役割を知る。					
単位認定の要件	参加率80%以上、到達目標80%以上					
単位認定方法へのフィードバック	提出物を添削して返却					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	実習総合オリエンテーション				
	2	観察実習（附属幼）の心得				
	3	実習希望調査、内諾のとり方				
	4	実習先への事務手続き、調査書作成				
	5	観察・参加実習（附属幼）の心得				
	6	保育実技（1）絵本、紙芝居の選び方・語り聞かせ				
	7	保育実技（2）廃品の活用の仕方、教材について				
	8	保育実技（3）廃品を活用して教材づくり、その指導法・発表				
	9	指導計画の意義、指導計画の作成				
	10	指導計画の作成と実際、指導案の作成				
	11	実習録の記載要領について				
	12	実習直前、諸連絡				
	13	評価の確認				
	14	実習反省録作成				
15	実習体験報告会					
教科書・教材	『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』					
参考書・参考文献等	特になし					
履修上の注意等	実習への意欲や期待感をもち、課題意義に取り組む姿勢で臨む。					

【2371】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
社会福祉		講義	小野 昇平	3年次	後期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		保育士
授業概要						単位認定の方法と フィードバックの有無
社会福祉は社会保障制度の一部であるため、社会保障制度に含まれている他の制度（年金、医療、介護、生活保護など）と併せて理解することが必要である。この講義では、これら社会保障制度についてその概要を説明するとともに、社会保障分野における最近の話題（年金の世代間公平、地域包括ケアシステムの問題、社会福祉法人改革、障害者に対する差別問題など）を取り上げ、これらについて考える。						期末試験 70% 有
						期末レポート —
						授業内試験 —
						授業内提出物 30% 有
						授業内活動 —
						その他 —
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	◎		○		—	
当該科目のキーワード	社会保障制度の概要		社会保障をめぐる現代的課題について考える		—	
授業時間外学修の指示	毎回の講義で提示されるまとめレポート（所要時間60分程度）に加え、日本の社会保障制度に関連するニュースをスマホでもテレビでもよいので、毎日20分程度見ておくこと。					
授業の到達目標	①種々の社会保障制度の内容について最低限の知識を身に着けること。 ②社会保障分野における最近の政策について、これらの政策の目的や内容、そして何が問題なのかを、大まかにでも自分の言葉で説明できるようになること。					
単位認定の要件	①②の観点からの評価の結果が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	毎回提出してもらったまとめレポートはコメントを付した上で返却する。試験についても模範解答を出す。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	社会保障制度の存在意義を考えよう				
	2	社会保障の歴史を振り返り、その理念を理解しよう				
	3	憲法に規定されている生存権の意味について理解しよう				
	4	年金保険①—公的年金制度の沿革と国民年金制度について理解しよう				
	5	年金保険②—年金の世代間公平の問題について考えよう／厚生年金について理解しよう				
	6	医療保険①—医療保険の仕組みを理解しよう				
	7	医療保険②—国民健康保険と後期高齢者医療制度について理解しよう／医療保険と財政の問題を考えよう				
	8	介護保険①—介護保険制度の仕組みを理解しよう／介護保険制度の存在意義を考えよう				
	9	介護保険②—介護保険制度の担い手について理解しよう／介護報酬引き下げの是非について考えよう				
	10	地域包括ケアシステムの概要とその意義を理解しよう				
	11	社会福祉法—福祉事務所や社会福祉法人の役割について理解しよう				
	12	障害者福祉①—障害とは何かについて深く考えてみよう				
	13	障害者福祉②—障害者に対する差別の問題を考えよう				
	14	障害者福祉③—障害者支援制度の全体像を理解しよう／障害者に対する合理的配慮とは何かについて考えよう				
	15	生活保護制度—生活保護制度・生活困窮者自立支援制度の全体像を理解しよう				
教科書・教材	特になし					
参考書・参考文献等	講義の最初に紹介するいくつかの参考書のなかから一冊手元に持っておくことを推奨する。					
履修上の注意等	社会保障制度は日々変化していくものであるため、普段からニュース等に注意しておくこと。					

【2382】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
子どもの保健Ⅱ		演習	福士 章子	3年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
				○		○		
授業概要		子どもの保健Ⅰで学んだ内容を更に発展させ、演習を中心に乳幼児のケアや健康管理、安全管理、健康教育を実践できるよう学んでいく。新生児人形を使用した乳幼児の援助の実習、消防署の救急救命講習を利用した救急処置の実習、保健便りの作成など保育の現場ですぐに役立つ実践力を身につける。				単位認定の方法とフィードバックの有無		
						期末試験	—	
						期末レポート	—	
						授業内試験	60% 有	
						授業内提出物	20% 有	
						授業内活動	20% 無	
						その他	—	
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		◎		○		○	
当該科目のキーワード	乳幼児の発育、疾病・異常に関する知識・理解		乳幼児の保育に必要な実践力		家庭や地域と連携する力		健康管理、安全管理、健康教育	
授業時間外学修の指示	毎日、新聞やニュースを見て、子どもを取り巻く社会問題に関心を持つこと。（週に45分程度は必須）							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小児の疾病や異常の早期発見・予防ができる知識・技術を習得する。 ・日常の保育の中での養護や援助の方法・技術を身につける。 ・救急時の対応や事故防止、安全管理について実践できるようになる。 ・保健の知識をふまえた上で、家庭や地域との連携のあり方を考える。 							
単位認定の要件	試験、授業内活動、提出物の合計評価が60点以上の者に単位を認定する。							
単位認定方法へのフィードバック	提出物は、評価したのちに返却する。授業内試験は、採点后、返却し、授業中に解説する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	子どもの発育の特徴を理解する。						
	2	身体発育の測定の留意点を理解し、方法と技術を習得する。						
	3	子どもの発達を理解し、発育・発達状況の評価ができるようになる。						
	4	子どもの健康を評価できるようになる。（体温、脈拍、呼吸、全身状態など）						
	5	子どもの日常における養護の基本的な技術を習得する。（抱っこ、おんぶ、おむつ交換、トイレトレーニング、着替え、授乳、食事の与え方など）						
	6	沐浴の留意点を理解し、方法・技術を習得する。						
	7	子どもの歯の発育を理解し、口腔内の衛生の方法・技術を習得する。						
	8	いざというときの救急処置の方法・技術を習得する。消防署救急隊員による救急救命講習①理論						
	9	いざというときの救急処置の方法・技術を習得する。消防署救急隊員による救急救命講習②実技						
	10	よく起こる事故についての知識を身につけ、事故防止の環境作りを考える。						
	11	子どもの感染症について理解し、予防方法、看護の仕方を習得する。						
	12	慢性疾患や障害を持つ子どもの保育についての援助の方法・留意点を理解する。						
	13	母親の育児不安と子どものストレス						
	14	講義前半	試験	／	家庭への啓蒙活動を考える。保健便りを作成してみる。			
15	講義前半	試験解説	／	子どもの生活習慣と健康への関わりについて理解する。				
教科書・教材	これならわかる！子どもの保健演習ノート 改訂2版 監修：榊原 洋一 執筆：小林 美由紀（診断と治療社）							
参考書・参考文献等	子どもの保健Ⅰで使用したテキスト							
履修上の注意等	服装は、ジャージ、エプロン、名札、長い髪は後ろで1つに結うこと。（沐浴実習の際は半袖Tシャツ）							

【2383】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科		
子どもの食と栄養		演習	今村 麻里子	3年次	前期	児童学科		
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目			
2	15	60	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士		
授業概要			保育所や幼稚園、小学校、特別支援学校において直接的に子どもの教育、保育にあたるための「食と栄養、食生活」の領域における理論と実践力を身につけることを目指す。子どもの健全な成長・発達に食生活と栄養が深くかかわっていることを理解し、食育の推進を支える豊かな心と創造力を身につけるような内容とする。さらに、食事づくり（調理実習）をとおして、栄養素と体の関係を理解する。			単位認定の方法とフィードバックの有無		
			○			○		
						期末試験 60% 有		
						期末レポート -		
						授業内試験 -		
						授業内提出物 10% 有		
						授業内活動 30% 有		
						その他 -		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》		《総合・統合》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。		獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
	◎		○		○		○	
当該科目のキーワード	小児の栄養・食生活の基礎知識		情報検索		課題に関するグループワーク		保育者としての食の関わり方の展望を持つ	
授業時間外学修の指示	予習・復習をそれぞれ45分程度行うとともに、自身の健康や食生活にも関心を持つこと。また新聞やメディアを通じた子どもの食環境などの情報収集をかかさないと。							
授業の到達目標	①乳幼児期から思春期に至る子どもの心身の発達に必要な栄養素の種類とその働きを知る ②それぞれの発達段階に応じた栄養および食生活の問題点と対応を知り、子育て支援に活かせることができる ③保育所、幼稚園、小学校における食育推進の基本と実践力を身につける ④子供の食生活におけるアレルギー対策・障害のある子どもへの食事の支援などの知識を得る ⑤調理実習の体験から、栄養素、消化、吸収、味覚の仕組みを理解する。							
単位認定の要件	到達目標の①～⑤の合計が60点以上							
単位認定方法へのフィードバック	試験や提出物は採点・返却し、解説する。授業内活動（実習）は授業内で評価を行い、解説する。							
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容						
	1	子どもの健康と食生活						
	2	子どもの食育：子どもの食生活の現状と課題						
	3	栄養の基本的知識：栄養の基礎概念、食事構成・献立の基礎知識【実習】						
	4	子どもの発育・発達と食生活						
	5	幼児期・学童期のおやつ【実習】						
	6	授乳期・離乳期の栄養と食生活						
	7	離乳食献立【実習】						
	8	幼児期の栄養と食生活						
	9	幼児食1～2歳児献立【実習】						
	10	幼児食3～5歳児献立【実習】						
	11	学童期・思春期の栄養と食生活						
	12	幼児期・学童期の弁当【実習】						
	13	家庭や児童福祉施設における栄養と食生活						
	14	行事・お楽しみ会の献立【実習】						
	15	特別な配慮が必要な子どもの栄養と食生活						
教科書・教材	子どもの食と栄養 編集：呉 繁夫・廣野治子（医歯薬出版） 新ビジュアル食品成分表（大修館書店）							
参考書・参考文献等	幼稚園教育要領							
履修上の注意等	望ましい食生活習慣は人間形成にもつながります。皆さん自身が食の大切さを感じ、実践していくことを意識して、真摯な態度で履修してください。							

【2387】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
障害児保育		演習	若林 一哉	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
2	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園 保育士
				○		○
授業概要		保育現場の中で、特別な配慮を要する子どもの特性や関わり方、そして保護者に対しての支援、そして共に支援していく関係機関について授業を進めて参ります。ノーマライゼーションの理念やインクルーシブ教育システムの本質の捉え方や、子ども一人一人の発達の連続性を尊重する関わりなどを柱として、現場で柔軟に対応できる専門性を養っていきます。最終的に、多角的に子どもを見つめるという事や、障害の捉え方を確認しあい、理解を深めていきます。				単位認定の方法と フィードバックの有無
		期末試験	—			
		期末レポート	50%	有		
		授業内試験	—			
		授業内提出物	50%	無		
		授業内活動	—			
		その他	—			
到達目標の分類	◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	《知識・理解》 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	《汎用的技能》 コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	《態度・志向性》 自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	《総合・統合》 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。	
当該科目のキーワード	障害特性	合理的配慮	協働	—		
授業時間外学修の指示	講義前日の予習45分及び当日の復習45分で、各回の到達目標を十分に理解するように努めること。					
授業の到達目標	① インクルーシブ教育に至る経緯及び関係法令等の理解 ② 障害の特性及び支援に係る基本的事項の理解 ③ 障害の捉え方、考え方の理解 ④ 保護者や家族に対する理解と支援方法の理解 ⑤ 障害児保育の現状と課題の理解					
単位認定の要件	到達目標①～⑤の合計が60点以上					
単位認定方法へのフィードバック	授業の中で実施したことを基に、与えられた課題に対してのレポートにて自身の考察を記述してもらいます。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	第1章 障害の捉え方と障害児保育の歴史（「障害がある」という状態、歴史の変遷）				
	2	第2章 障害児保育の基本（障害児保育の対象、障害児保育の理念）				
	3	第3章 肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害の理解と支援（肢体不自由、病弱・身体虚弱）				
	4	第3章 肢体不自由児、視覚障害・聴覚障害の理解と支援（視覚障害、聴覚障害）				
	5	第4章 知的障害児の理解と支援				
	6	第5章 発達障害児の理解と支援（ASDの特性と支援）				
	7	第5章 発達障害児の理解と支援（ADHDの特性と支援）				
	8	第5章 発達障害児の理解と支援（LDの特性と支援）				
	9	第7章 子ども一人一人の発達を促す生活と遊びの環境				
	10	第8章 子ども同士のかかわりと育ち合い（事例と演習）				
	11	第9章 職員間の協働				
	12	第10章 保護者や家族に対する理解と支援の方法				
	13	第12章 小学校や関係機関との連携				
	14	障害のある子どもの保育にかかわる現状と課題				
15	インクルーシブ教育システム構築に係る動向と今後の課題					
教科書・教材	藤原 保 監修 障害児保育（萌文書林）					
参考書・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「保育所保育指針」（厚生労働省） ・「幼稚園教育要領」（文部科学省） ・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（内閣府） ・「実践に生かす障害児保育」（萌文書林） ・「発達が気になる子の個別の指導計画」（Gakken保育Book） 					
履修上の注意等	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、グループを編成しディスカッションと発表を行います。 ・毎時間、授業内容に関するコメントカードを提出していただきます。 					

【2390】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科
言語表現		演習	小田 光子	3年次	前期	児童学科
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目	
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園
				○		保育士
授業概要			幼児期における言葉の発達について学び、子どもが児童文化財等に親しむ体験や保育環境との適切な結びつきに関わっていきけるよう、子どもの情緒や感性、生活スタイルの向上に働きかけていく方法や子どもを惹きつけるための言語表現の技術を習得する。			単位認定の方法とフィードバックの有無
			期末試験	—		
			期末レポート	—		
			授業内試験	—		
			授業内提出物	40%	無	
			授業内活動	60%	無	
			その他	—		
到達目標の分類	《知識・理解》		《汎用的技能》		《態度・志向性》	
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標	専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。		コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。		自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	
	○		◎		○	
当該科目のキーワード	幼児期の言葉の発達と保育者の役割や方法の理解		言語表現力		グループの協力・協調	
授業時間外学修の指示	保育者に求められる言語表現力の向上を目指して、個人又はグループで言語表現活動の練習をする。					
授業の到達目標	言語表現の技術を習得し、向上するために、 ①幼児期における言葉の発達について理解し、それを支える保育者の役割や保育方法を習得する。 ②絵本の読み聞かせや紙芝居などの表現技術を身に付ける。 ③保育教材を作成し、その手作り教材を使った表現活動の実演発表をする。					
単位認定の要件	・到達目標の①～③の合計が60点以上。					
単位認定方法へのフィードバック	・毎時間の授業のまとめの考察文は返却しないが、疑問や質問等については授業中に解説する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容				
	1	ガイダンス（授業の目的・概要・計画・指導上の留意点など）				
	2	子どもの言葉の発達と保育				
	3	言葉を豊かにする保育				
	4	児童文化財と保育				
	5	絵本の魅力と保育				
	6	絵本の読み聞かせの方法と工夫				
	7	乳幼児の発達に沿った絵本の読み聞かせ				
	8	紙芝居の魅力と紙芝居の演じ方				
	9	紙芝居を演じる				
	10	昔話の読み聞かせ・語り聞かせ				
	11	素話を演じる				
	12	保育教材の研究①（保育教材の作成計画）				
	13	保育教材の研究②（保育教材の制作）				
	14	保育教材の研究③（保育教材の制作と実演練習）				
15	保育教材の研究発表とまとめ（手作り教材の実演）					
教科書・教材	特になし					
参考書・参考文献等	「保育所保育指針」（平成29年告示）					
履修上の注意等	毎時間、授業のまとめの小考察文を提出する。言語表現の技術を身に付けるために行う表現活動には積極的とする。特に、グループ活動は協働して行い、切磋琢磨し合う。					

【2394】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育実習指導Ⅱ		演習	保育士課程委員会	3年次	前期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		単位認定の方法と フィードバックの有無
1	15	30	必修	選択	小学校	幼稚園	保育士
				○			○
授業概要		保育実習Ⅰを振り返って各自の学習内容・課題を明確化するとともに、保育実習Ⅱに向けて、既習の教科の内容をふまえて科目横断的に知識・技能を総合し、保育実践力を培うための演習を行う。また、実習施設の理解の深化のために、現場の職員からの講話を聞く機会を設ける。					期末試験 — 期末レポート — 授業内試験 — 授業内提出物 60% 有 授業内活動 40% 有 その他 —
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
当該科目のキーワード		○	—	○	◎		
授業時間外学修の指示		授業前日の予習と授業後の復習により各回の到達目標を達成できるように努めること。特に模擬保育の指導案作成と演習には、学生同士協力して課題の達成に努めること。					
授業の到達目標		保育実習Ⅱを円滑にすすめるため、実習に対する総合的な準備を行う。そのために、保育実習の理解の深化と実践力の形成を図る。保育実習Ⅱの意義・目的を理解し、保育実習Ⅰの振り返りから自己課題を明確化するとともに、保育士の専門性と職業倫理について理解する。また、実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、実技、指導案作成、模擬保育等を通して、保育実践力を培う。実習後には、実習総括・自己評価を通して、新たな課題や学習目標を明確にする。					
単位認定の要件		授業内提出物・授業内活動・課題レポートの合計点が60点以上であること。					
単位認定方法へのフィードバック		外部講師の講話に関するレポート、模擬保育の相互評価の結果を返却する。					
授業計画 (各回の内容や到達目標)		回	内 容				
		1	保育実習Ⅱの概要、意義・目的、保育実習Ⅰの振り返り(1)保育実習Ⅰの自己評価				
		2	保育実習Ⅰの振り返り(2)実習録の再点検				
		3	子どもの最善の利益と保育士の職務の理解(業務内容と職業倫理)				
		4	保育実技(1)基本的な生活習慣：手洗い、排泄、食事など、はしの持ち方、歯のみがき方				
		5	保育実技(2)遊びの指導				
		6	指導案の書き方(1)部分実習の指導案				
		7	指導案の書き方(2)全日実習の指導案				
		8	保育実践力の育成～指導案作成と模擬保育(1班)				
		9	保育実践力の育成～指導案作成と模擬保育(2班)				
		10	保育実践力の育成～指導案作成と模擬保育(3班)				
		11	保育実践力の育成～指導案作成と模擬保育(4班)				
		12	保育実践力の育成～指導案作成と模擬保育(5班)				
		13	実習施設の理解～保育所保育士講話(縦割り保育、子育て支援)～				
		14	保育所実習Ⅱについて～事前の準備、事前訪問、書類の作成について～				
		15	実習中の心得～実習の心得、諸注意、連絡事項～				
教科書・教材		適宜、参考資料を配布する。 厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館					
参考書・参考文献等		全国保育士養成協議会編『保育実習指導のミニマムスタンダード』北大路書房					
履修上の注意等		配布した参考資料は大事に保管し、予習・復習すること。 実習終了後の反省報告会には必ず出席すること。					

【2395】 専門教育科目		授業形態	担当教員名	開講年次	開講時期	開講学科	
保育実習Ⅱ		実習	保育士課程委員会	3年次	後期	児童学科	
単位数	授業回数	時間数	卒業要件		免許・資格：「○」は必修科目、「△」は選択科目		
2			必修	選択	小学校	幼稚園	
				○		○	
授業概要		① 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ② 子どもの個人差について理解し、発達の違いに応じた援助の方法を習得する。 ③ 指導計画を立案し、実践する。 ④ 子どもの家族や地域との連携の方法を具体的に学ぶ。 ⑤ 保育士としての職業倫理を理解する。 ⑥ 保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確にする。				単位認定の方法とフィードバックの有無	
						期末試験	—
						期末レポート	—
						授業内試験	—
						授業内提出物	—
						実習施設の評価	60%
						大学の評価	40%
						無	有
到達目標の分類		《知識・理解》	《汎用的技能》	《態度・志向性》	《総合・統合》		
◎印は中心となる目標 ○印は関連・付帯する目標		専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。	コミュニケーション・スキル、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力。	自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任、生涯学習力。	獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。		
		—	—	○	◎		
当該科目のキーワード		—	—	保育所職員との協働	自己課題の明確化		
授業時間外学修の指示	実習記録と実習指導案の作成により毎日の実習目標の設定と達成状況を省察し、新たな課題を見出すよう努めること。						
授業の到達目標	本実習は保育実習Ⅱ（保育所・園）として、保育実習Ⅰ（保育所・園）における学習と反省をふまえ、保育所の保育に参加して実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。また、家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解、判断力を養う。						
単位認定の要件	規定日数の実習を行っておりかつ実習施設と大学の評価の合計が60点以上であること。						
単位認定方法へのフィードバック	実習録の記入状況を保育士課程委員会が評価し、講評を添えて返却する。						
授業計画 (各回の内容や到達目標)	回	内 容					
		10日間の本実習については、参加実習、指導実習が中心になる。 指導内容や日程計画については、実習園の事情や実習生の状況に応じて下記の内容で指導を適宜お願いする。 《全体》 ①施設の保育方針、保育目標、保育課程や子どもの姿等についてのオリエンテーション ②子どもへの援助方法についての助言・指導 ③環境構成や一般用務等の助言・指導 ④服務心得についての指導 ⑤指導計画の立案、実施に対する助言・指導 ⑥実習録の指導 《参加実習》 ①実習生の紹介 ②配属クラスの状況の把握 ③配属クラスでの保育参加 ・子どもが日常繰り返す活動への補助（登・降園時の活動、手洗い、排泄、食事、午睡） ・日常繰り返さないが、一つのまとまりを持った活動への参加（子どもが自らすすんで行う活動、紙芝居、リズムカルな集団遊び、製作等の準備や後片付けを含む） 《指導実習》 ①部分実習：保育の一部分を担当する指導計画を立案し実践する。 ②責任実習：一日の保育を担当する指導計画を立案し実践する。					
教科書・教材	厚生労働省編『保育所保育指針解説』フレーベル館						
参考書・参考文献等	幼少年教育研究所編著『新版 遊びの指導—乳・幼児編—』同文書院						
履修上の注意等	体調管理を徹底するとともに、事前訪問時の指導内容を理解した上で準備を整えて実習に臨むこと。						